

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本プロテインホスファターゼ研究会、酵母遺伝学フォーラム、日本薬学会、日本薬理学会、日本RNA学会
※	日本動物学会
※	なし
※	日本研究皮膚科学会 日本人類遺伝学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本内科学会、糖尿病学会、内分泌学会
※	日本物理学会
※	ウイルス学会
※	日本薬理学会
※	日本放射線影響学会
※	日本化学会、日本眼科学会
※	日本放射線影響学会日本放射線生物研究会
※	微生物生態学会
※	日本薬学会
※	日本再生医療学会
※	日本RNA学会
※	染色体学会、日本再生医療学会
※	日本内分泌学会米国内分泌学会
※	日本薬学会AAAS
※	日本筋学会
※	日本組織培養学会、日本再生医療学会、日本基礎老化学会
※	筋学会、日本内分泌学会
※	日本植物学会
※	日本蚕糸学会、日本応用動物昆虫学会
※	植物バイオテクノロジー学会、生物工学会、園芸学会
※	日本アレルギー学会 日本実験動物学会
※	日本循環器学会
※	日本ケミカルバイオロジー学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本宇宙生物科学会、日本栄養・食糧学会
※	日本解剖学会、日本動物学会
※	日本酸化ストレス学会、日本アミノ酸学会
※	日本薬学会
※	動物学会
※	日本栄養食糧学会、日本食生活学会
※	血管生物医学会
※	日本薬学会
※	日本ケミカルバイオロジー学会日本ウイルス学会
※	日本衛生動物学会
※	英国発生生物学会
※	日本放射線影響学会
※	がん免疫学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本血管生物医学会、日本リンパ学会
※	RNA学会、ウイルス学会
※	日本薬学会AAAS
※	日本薬学会
※	日本RNA学会
※	神経化学学会
※	日本RNA学会
※	日本育種学会
※	日本筋学会
※	日本血液学会、日本病理学会
※	日本霊長類学会
※	日本肝臓学会
※	日本味と匂学会、日本生物工学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本動物学会
※	日本血液学会
※	日本Cell Death学会
※	日本認知症学会、日本生理学会
※	日本動物学会
※	日本エピジェネティクス研究会日本蛋白質科学会
※	日本血管生物医学会
※	日本血管生物医学会、日本動脈硬化学会
※	日本バイオインフォマティクス学会日本物理学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本放射線影響学会、日本基礎老化学会
※	日本糖尿病学会、日本実験動物学会
※	日本腎臓学会
※	日本細菌学会日本栄養改善学会
※	日本動物学会
※	日本ウイルス学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本RNA学会
※	日本体力医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本体育学会
※	日本組織培養学会、日本薬学会、日本薬剤師会、日本再生医療学会、日本がん分子標的治療学会
※	ウイルス学会
※	人工知能学会
※	日本植物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本放射線影響学会、米国Radiation Research Society
※	日本実験動物学会
※	血管生物医学会
※	日本血液学会
※	日本リスク学会
※	日本薬学会、がん治療学会
※	日本生理学会
※	日本動物学会
※	日本動物学会
※	無回答
※	日本蛋白質科学会、日本結晶学会
※	日本整形外科学会 日本生理学会
※	日本細菌学会
※	日本病態プロテアーゼ学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本実験動物学会、日本ゲノム編集学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	日本実験動物学会
※	日本筋学会
※	日本化学会、日本蛋白質科学会
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本神経化学会
※	日本ウイルス学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、日本進化学会
※	日本生態学会、日本進化学会
※	日本基礎老化学会、日本老年学会、日本未病システム学会、日本栄養・食糧学会
※	日本繁殖生物学会、日本受精着床学会
※	日本進化学会、日本ゲノム微生物学会
※	臨床検査医学会
※	日本筋学会
※	日本実験動物学会
※	極限環境生物学会
※	日本応用動物昆虫学会日本動物学会
※	染色体学会、日本人類遺伝学会、日本再生医療学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本血管生物医学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本生物工学会、日本動物遺伝育種学会、日本ゲノム編集学会、

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	もう少し裾野を広げた方が良い
※	SARS-CoV-2のシンポジウムとか用意できなかったのか？
※	偏っているとは思わないが、テーマの幅が乏しいと感じた。もっと幅広い分野からの積極的な企画提案が望まれる。海外の大物のプレナリーレクチャーをもっと聞きたかったが、なくて残念だった。
※	いつも同じメンバーが講演している印象。
※	もう少し植物の話題があると毎回、参加したいと思える。
※	ワークショップとシンポジウムの違いを感じない。発表済みの大きな仕事か、on goingのポテンシャルのある仕事かをコンセプトとして揃えるか、あるいは敢えて色々ありなのか発表済みの仕事は、基本的にすべて後で視聴できるようにしていただけるとありがたいです。
※	偏っているというより、テーマが specific すぎる印象でした。
※	もっと偏らないとただの一般受け(普遍性でなく)発表で終わってしまう
※	女性、と銘打ったセッションはいらないのでは？
※	内容が(事実上)重複するものが多い。
※	同じラボから別のシンポ・ワークショップへの演題が散見された。参加者が激減した一因と思われる。いろんなところに何度も出てくるオーガナイザーがいる。偏っている証拠。
※	医学系が多くなった。
※	「シンポジウム・ワークショップ共通の意見」流行ではあるものの、全体的にRNA関連やLLPS関連のセッションが多かった
※	今年はCOVID19が流行した年なので、もっとたくさん、関連した演題が欲しかった。情報収集や興味の両方で、かなり物足りない学会と思えた。
※	偏っているというよりも、満遍なさすぎる。多彩だけどいつも同じような分野で、ワークショップとの違いもあまり見えないし、新しい科学の芽吹き、息吹を感じられるような企画もあまりない。もっとテーマを絞って各自の研究紹介の場にすることでなく、その分野の先端的な内容をエキスパートが討論することで、今後の展望が見えてくるような本当のシンポジウムの企画
※	あまり例年ほど、面白くなかった
※	テーマはともかく、京大ばかり
※	サテライトシンポジウムが非常によかった。このアンケートでは無視されているようですが。
※	今回は興味が湧くテーマが多くはなかった。
※	全体を俯瞰していないので、回答不可。
※	例年に比べて、聞きたいと思うシンポジウムが少なかったように思います(特に初日)。
※	シンポジウムオーガナイザーの方を京都大学の先生方に限るのはいかがなものかと思いました

質問5-8. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	言語を全英語にするのであれば海外からの講演者・参加者をもっと増やすよう努力すべきであるが、欧米からのオンライン参加は時差があり難しい。また、ワークショップの締め切りが1月であったので入念な招待者の準備は難しいと感じる。使用言語を含め学会の方向性を改めて検討した方がよいと思われる。
※	web環境等の違いによって、音声が届きにくいケースがいくつか見受けられた
※	質問しても、チェアが気づいてくれないことがある。
※	海外から招待する場合は、時差等を考慮した時間設定にするべきだ。
※	プレゼンターの発表が長いと質疑の時間が相対的に短くなるが、Q&Aに質問をタイピングしているうちにタイムアップしてしまうことが何度もあった。そのあとに“Meet the Speakers”へ行っても質問しづらかった。
※	書き込もうと考えている間に、時間が過ぎてしまう。
※	チャットによる質問内容をリアルタイムで見れるようにしてほしい。
※	オンデマンド配信を全員に求めて、標準にしてほしい。ワークショップの演題は印刷して欲しかった。
※	英語のプレゼンをしななければならないのなら、海外からのシンポジストを増やした方がよい。なんのために不自由な英語で話しているのかわからない。プレゼンを聞きながら、質問を英語で書き込むのはなかなか難しい。口頭で質問したいと感じ一部にしか参加しておらず適切なコメントができませんが、全てのオンライン会議に共通なのは、参加者に対して質問者が非常に少ないように思う。
※	シンポジウムは1つしか参加しなかったので意見なし。
※	多数のポスターをオンラインで聞くのは大変だった。
※	質疑をチャットで行うと臨場感が足りない感じがしました。できれば聴衆からも直接マイクで質問できるような方がよいと思います。
※	オンラインで招待旅費が浮くので、その分、たくさん呼べるのでは？
※	海外からの発表は、時差がある為、録画で十分であり、その方が多くの海外シンポジストの参加が期待できる。
※	終わった後の個別ルームは制度としては良いものの、スケジュールがかなりタイトなため、入りにくいと思いました。
※	シンポジウム、ワークショップ、フォーラムについてはオンラインの方がむしろよい。・スライドが見やすい。・音声が聞きやすい。・座席の空きや位置を気にしなくてよい。・別な講演を聞きに行くために講演途中で部屋を移ることが容易。シンポジウム、ワークショップともに講演が連続して長すぎる。ひとかたまりを50から70分くらいにして間に休憩を入れるべき。
※	Q&Aでの質問の他に、聴衆同士で反応を共有できるようなchatのページがあるとよいと思いました。Q&Aへ質問が投稿された際、座長が[Liveで応答]をクリックするまで他の参加者には質問が見えないのですが、質問が先に出ていると参加者の投稿のハードルが大きくなるので、活発な議論のために質問をすぐに見えるようにしておくのとよいと思います。
※	参加者の英語力を上げないと、海外からの参加者を増やしていくのが難しいと感じましたので、それに対応していかないといけないと思います。
※	チャットで質問は、打ち込み速度と打ち損じて難しいと感じました。
※	聞き逃した演題をオンデマンド配信で閲覧できてよかった。
※	オーガナイザーがQAの質問を読み上げるようになっていましたが、オーガナイザーが読み上げる英語を理解するのが難しかった。QAに書かれている内容を理解しながら読み上げることになるので、オーガナイザーにとっても難しかったのではないのでしょうか。QAに書き込む側にも、対面で質問する時と異なるスキルが求められているように思いました。
※	質疑応答に関して座長が拾って通訳するという形だが、座長の英語力？依存的であり、きちんとこちらの質問の意図を汲み取っていただけられない場合があり、残念でした。
※	質問のテキスト入力には手間がかかり、結果、質問の数が極めて少なかったように思う。パネリストや聴取からの質問は、自動的に全員が閲覧できるよう設定出来た方が良かったように思う。
※	アメリカからの講演者が深夜の時間帯での発表かわいそうだったが、それでも来日せずともライブで講演・質疑応答できるメリットの方が大きいと感じた。
※	参加していない
※	質疑はその後も閲覧、議論できるような仕組みにしてほしい。Cold Spring harbor meetingではSlackチャンネルを解説して交流にも一役買っていた。
※	「シンポジウム・ワークショップ共通の意見」オンライン質疑は、質問時間に質問事項をタイプしている間に、座長が「質問はないようなので…」と座長と発表者(または発表者間)で話を始めてしまい、その間に質問が終わることが多々あった。オンライン開催では、セッションの最後にチャットルームとは別に質疑応答の時間を再度用意してもいいと思う。またそのセッションの参加者情報が、座長・発表者以外にも分かるとよいと思った。
※	シンポジウムでもワークショップでも同じだが、海外のスピーカーから先端的な話を聞く機会を作るなら、分野ごとに個別に講演会をリモートで視聴する方がもはや良い。今回は緊急対応だったので、既存の分子生物学会をリモートでそのまま実施しようとする試みの意義や大変さもわかるし、よくできていたと思う。ただ、海外ゲストの話を聞く機会と国内でクローズして母国語で異分野の幅広い意見を聞く機会を作ること、どっちを重要視すべきなのか、リモートにあっているのはどちらだったか、今一度、しっかり総括する必要はあると思われる。
※	チャット形式の質問は会場でするよりも気軽にいってよかったと思います。会場の移動も楽で、口頭の講演や発表を聞くのはオンラインがよいと思いました。
※	例年、顔ぶれがマンネリ化している傾向があったが、今回は新鮮さがあった。
※	zoomにおけるオーラル発表が下手な人が多く、目が疲れた。
※	時差が…申し訳なかった。
※	チャットで質問したときに、お互いに質疑を理解し合っていない、議論もできない場合があった。
※	オンデマンド配信をもっと多くしてほしい
※	興味はあったが会議等と重なって聴講できなかった
※	コメントや感想を気軽に書き込める仕組みが欲しかった。いいね！ボタンとかもあっていいのでは。
※	参加する余裕がなかったため、回答不可。
※	英語の質疑応答は、ストレスを感じました。
※	スピーカーがQ&Aに書き込めないのは物足りなかった。一方で、一般聴衆の質問がQ&Aに書き込むだけだったら、一往復しか回答ができず物足りない。
※	他の学会のオンラインでの年会と比較して、質疑がとても行いやすく、良いシステムだと思った。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	もう少し裾野を広げた方が良い
※	質問しても、チェアが気づいてくれないことがある。
※	同時に開催するセッション数が多すぎるので期間を4日にしてもっと分散させるべきだと思います。質問時間が短いと思います。参加人数が視聴者にもわかるようにすべきだと思います。
※	偏っているとは思わないが、テーマの幅が乏しいと感じた。もっと幅広い分野からの積極的な企画提案が望まれる。せっかくオンライン開催なので、興味のあるトークを多く聴けるように、ワークショップの時間をずらすなどの配慮が明らかに欠如しており、とても残念だった。昼の時間も有効に使えるはず。
※	聞きたいセッションが複数あったので、もっとオンデマンドが多いと良いと思った。
※	Q&Aの反映が少し遅く感じた
※	Q&Aを介した質疑には困難があることもあった。Slackなどに連動させてQ&Aのやり取りをセッション後も残して議論を継続させることが良いと思う。
※	1日目の発表時に、残り時間の表示が出なかった
※	チャットによる質問内容をリアルタイムで見れるようにしてほしい。
※	質問者の顔が見えないのがやや不満な点ですが、zoom開催の関係上、仕方がないのかも知れません。
※	慣れていないヒトが多いので、継続して、作法が成熟するのを待つべきだと思います。
※	質疑に関しては必ずしも双方向性が確保されていないため、議論を膨らませることが困難だと感じた。Q&Aボックスの内容を間接的に司会者が演者に伝えたり、聴衆側の表示にタイムラグがあったりして、質疑の進行にもどかしさを感じた。
※	プレゼンを聞きながら、質問を英語で書き込むのはなかなか難しい。口頭で質問したいと感じた。
※	一部にしか参加しておらず適切なコメントができませんが、全てのオンライン会議に共通なのは、参加者に対して質問者が非常に少ないように思う。
※	今回オンラインとなり、海外からの参加がほとんどない中で、英語での討論に意味をあまり感じなかった。(ディスカッションが崩壊した事例が散見された)
※	オンラインだと質疑のコミュニケーションは2方向性になりにくいので、オンサイトより難しい。単純な質問でない、的確な答えが得にくい。
※	オンラインでも、~2時間に一度、15分くらいの休憩時間が必要。また、一演題15分の発表時間はやや短い。最低20分(質疑応答時間除き)必要。
※	シンポジウム、ワークショップ、フォーラムについてはオンラインの方がむしろよい。・スライドが見やすい。・音声が聞きやすい。・座席の空きや位置を気にしなくてよい。・別な講演を聞きに行くために講演途中で部屋を移ることが容易。シンポジウム、ワークショップともに講演が連続して長すぎる。ひとかたまりを50から70分くらいにして間に休憩を入れるべき。
※	参加者の英語力を上げないと、海外からの参加者を増やしていくのが難しいと感じましたので、それに対応していかないといけないと思います。
※	後日配信のあり、なしはワークショップ毎に(できれば基本的にあり)の方が予定が立てやすかった。
※	学術的に何のこだわりも感じない採択されることや国内政治が目的のワークショップが増加中
※	参加してないのでわかりません。
※	ワークショップは日本語言語の方が良いと感じた。
※	座長が質問を読み上げる形式では、質問者の意図が通じないと思う。また、質問に対して演者が答えられているかを、読み上げた座長は理解するのは難しいと思う。また、通常の学会に比べて質問の数が明らかに少ないと感じた。
※	質問のテキスト入力には手間がかかり、結果、質問の数が極めて少なかったように思う。パネリストや聴取からの質問は、自動的に全員が閲覧できるよう設定出来た方が良かったように思う。
※	5時になると参加者が一気に減るような気がしました。少し早めに始めても良いかも知れないと思いました。
※	ウェビナー形式の場合、質問者の顔が見えないのは残念である。リアルの学会では、若手研究者が質問に立つことで顔が売れる(存在感が増す)ケースもあるので。
※	机に座った状態で、混雑をきにせずに視聴できるので、集中できました。
※	参加していない
※	発表する側としても、聴衆としても、オンラインといえども1セッションの半ばに、5-10分の休憩は必要だと感じた。
※	オンラインでの質疑応答の方が、現地開催に比べてテンポがよかったです。文章として伝えるので、質問内容が簡潔になるのかもしれない。これなら演者として質問に答える側になったときありがたいと感じました。
※	質問がやはりしにくい。気軽に聞くことができないので、どうしてもスピーカークラスのやりとりに終始してします。
※	シンポジウムと同様、オンラインのプログラムを開くまで、内容がわからず、どのワークショップに行くか探すのに少し困難を感じました。紙面のプログラムに、発表者とタイトルまでは掲載していただければよりよかったです。
※	どうしてチャット機能をオフにしたのか理解できない。プラス、参加者名はもちろん、参加人数すら参加者側はわからない(発表側はわかるので、チャットで情報をシェアした)。チャット機能が切られているので、発表していても聞いているのか反応がなく虚しいと発表側からもいわれたし、参加者側もたとえよめきのような反応を送ることができない。分子生物学会はもっと議論ができる場だと思ったのに失望。今時の座長はzoomの使い方くらい慣れていてと思うので、そのあたりのコントロールもできると思うのだが。
※	座長の中には座の仕切り方を知らないような人もいた。若い研究者にとって座長の仕事を学ぶ場でもあるので、座長の事前準備も重要だと感じた。
※	zoomにおけるオーラル発表が下手な人が多く、目が疲れた。
※	オンデマンド配信をもっと多くしてほしい
※	英語での質疑応答は、予想に反してオンラインだと難しいように思いました。生物物理学会の時は、結構質問が出ていたのですが、なぜか分子生物学会ではほとんどなかったです。英語で書き込むことが難しいと思う学生さんが多いのでしょうか
※	WS演者として参加しました。海外の演者を招いているにも関わらず、直前の説明等が日本語のみで困惑しました。運営側が各WSで説明することが現実的に難しいのであれば、少なくとも一ヶ所英語での説明を聞ける場所を設けるなどあれば良かったと思います。オーガナイザーからの説明に任せるのであれば海外演者は日本人演者と同じ時間にZoomにアクセスを求めない方が良いと思います。自分にはわからない日本語のやり取りを聞かされるのは海外演者の年会へのコミットメントを損なうのではないかと思います。
※	興味はあったが会議等と重なってあまり聴講できなかった

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	似たような内容のセッションが同じ時間に開催されていたので、聞き逃しがあつた。
※	コメントや感想を気軽に書き込める仕組みが欲しかった。いいね！ボタンとかもあっていいのでは。
※	チャットで質問を提出し、座長がpick upするという形態は、気軽に質問でき、予想外に快適でした。
※	例年のように一般演題からのワークショップのトークへの採択があるほうが良かったですNew Facesをうたう割にはシンポジウムやワークショップのオーガナイザーが知っているひとだけを集めるというある種の排他的な流れになっているのは矛盾しているようにも感じました
※	ワークショップは質疑応答を入れて20分程度の発表が多かったと思いますが、発表時間を20分と勘違いされていた発表者やオーガナイザーがいらしたと思います。その後、質疑応答などが続いて時間がかかり、後の方の発表は聞けませんでし
※	ワークショップ後のディスカッションルームで直接話げできたのが良かった
※	他の学会のオンラインでの年会と比較して、質疑がとても行いやすく、良いシステムだと思った。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	アップロードしたポスターを見るときに、別ページへ行く必要があり、とても不便。発表者のページからワンクリックでアップロードしたポスターが表示されるようにしてほしい。
※	おそらく参加人数の多さに起因すると思うが回線が不安定になることがたびたびあった。また、ポスターとはいえほぼ口頭発表と同じであり、あまりポスターセッションという感じはしなかった。ポスター発表者にとってはポスターに人を呼び込む方法が少なく、ポスター前を離れることもかなわず、難しい。なおオンライン検索システムは演題をクリックするたびに最初に戻ってしまい使いづらい。昨年までのシステムを活かしてもらえればと思う。
※	ポスター発表の移動時間がオンラインだとほぼ無いので、聞きたい発表へスムーズにアクセス出来た。が、途中から入った場合に、ポスターの全体像が見られないので、その点がストレスか。
※	アクセス混雑の問題があった
※	ポスターを見に来た人の名刺交換機能があると便利だと思います。また、発表者は誰が来たかを確認、記録できるシステムがあると便利だと思います。
※	時間外でも質問したりできる方がいい
※	三次元の仮想空間のなかにポスター発表会場を再現してもらいたい。システムは(https://cluster.mu/) やそれに類するものを使用。
※	非常に見にくかった。プレビューを表示するのではなく、テーマ一覧から選択してプレビュー表示した方が見やすかったと思
※	視聴者がポスターを自由に見られない(講演者しか縮小拡大を操作できないなど)ことは、困った。
※	混んでて参加できなかった
※	一ページでわかるプログラムが欲しい。共著者が多すぎて、演題が多くてスクロールが大変だった。
※	ポスターセッションはどこに演者がいてどこが混んでいるのかわからずオンサイトの集会よりも全体の俯瞰性が低いと感じました。見たいポスターと演者を見つけやすく、偶然の出会いを促進できるような形式が望ましいです。REMOのようなものが候補ですが今後の検討課題ですね。
※	質問できる人が限られていた。複数でズームに参加できないのか？
※	オンラインの時間が限られているので、2日間、繰り返すのが良いかと思います。
※	オンラインでのポスター発表を初めて聞くことになったので、普段のように色々眺めて歩くようにする方法(流し見機能)に最初は気づけなかった。自分の目的に応じたWebサイトの使い方ができるように、どのような仕様が実装されているのか予め概略を知っておくべきだった。
※	ポスターに行く前のwebページがなかなか開かず、しばらくポスターに訪問できなかった。
※	多くの人がppt fileでの説明を好み、ポスターの意味を感じませんでした。偶数奇数で時間を区切るのはとても悪習だと思います。もともとは隣に迷惑をかけるからの偶数奇数ですから、zoomで区切る必要はないと思います。口頭発表の機会は重要ですし、zoomを使うのであればすべて口頭発表にするのも意味があるとおもいました。
※	ポスターの閲覧もしやすく、発表者の話もよく聞こえてオンサイトのポスター発表と比較して非常に回りやすい内容になっていた。ポスターの閲覧だけ、と発表者と会話で別空間になっているところがオンサイトとはまた違った期待しなかった良さだと思った。視聴者的には非常に良かったが、発表者側としてはできれば多くの人と接触したいと思う。予想ではポスターを閲覧している人は山ほどいるが実際にウェブナーに入ってくる人はわずか、という感じがするので、それでもポスター閲覧者のリストとか人数くらいがわかれば励みになるかもしれないと思った。演者にもメリットがないと続かないと思う。
※	初日のポスター発表開始直後は、サーバーが重すぎてまともにプログラムを表示、zoomにアクセスができなかったため、以後ポスターセッションは発表時間には見なかった。
※	ポスターを読むのが大変だった。現地でポスターを眺めるようにポスターを見れるようにしてもらえれば助かります。
※	時間外でのディスカッションができなかったのが残念(おそらくSpeakerがログアウト)ウェブプログラム上で要旨からポスター閲覧へのリンクがあると便利だったと思う。(いちいち探しに行かなくてはいけなかったので)
※	ポスターの詳細を見たあと戻った際にリセットされてしまうのは困る。タブで新たに開けるようにしてほしい。
※	ポスターの要旨やポスター一覧を閲覧するページからZoomに直接飛べないのが不便に感じました。またブックマーク一覧画面からセッションのページに飛べないのも不便に感じました。
※	Zoomで入ってみて、議論が白熱している、としばらく待たないといけなくて、それはon-siteでも同じだけど、遠目に様子を見ながら、周りのポスターを見たりできるけど、zoomだとタイミングが、まあ仕方のないことですが、その辺のタイミングが難しく感じました。概ね良好にコミュニケーションとれました。
※	zoomで繋がっていない時にも、発表者あてに質問・コメントを残せるとより良い。
※	オンラインでのトークは、質疑応答が難しいこと意外は問題なく行えると思うが、ポスターセッションはかなり難しいと感じた。ポスターを閲覧している人がいるかどうか、リアルタイムでわかるような仕組みがあるとベターだと思った。
※	ポスターを貼り出さず、ZOOMで演者が公開する形式は盗用防止に一定の効果はあると感じた。一方、long talkの演者もおり、エッセンスだけを聞いたりその結果だけを把握して議論したいときに冗長であることも多かった。ただ、ポスターそのものを閲覧できるシステムも考えてほしいと思った。
※	ポスターセッションはオンラインではやりずらかった。・Zoomで途中から入ると話が分からない。・現実のポスターと違い、そのポスターが込んでいるかが事前に分からない。・ポスターなのに、口頭発表のごとく初めから15分かけて説明されると他を見る時間がない。・いくつものポスターを眺めて歩くようなことがやりづらい。・BookmarkからポスターのZoomには行けたが、PDFには行けなかった。結局TimeTableのポスターのところから見るので面倒だった。・ポスターの一覧性が悪い。目次のページがどれも使いにくかった。
※	ポスターの縮小一覧画面にもっとたくさん(6つくらい?)のポスターが載るようにレイアウトして欲しかった。要旨の画面からもポスター詳細やzoomに直接リンクするようにして欲しかった。要旨の画面にも戻るボタンをつけて欲しかった。(ブラウザの戻るボタンでは、1日目のポスターの分類の画面に行ってしまうので・・・)
※	初日のポスターセッションの開始と共にサイトにアクセスできなくなり、奇数番号のポスターをほとんど訪問できませんでした。お気に入りに入れたポスターのリンクだけを予めまとめてDLしておける機能があれば良かったかと思っています。発表時間以外にもポスターが見られるのはとても良いと思いました。入室してみないと人がどのくらいいるかわからないので、入ってみたら既に議論が始まっていて他へ移動する、ということが何度もありました。話している人の数の見えるspatialchatやgather.townのほうが良かったのではないかと思います。
※	目的の演題のみを数題聴くだけになってしまい、オンサイトなら可能な他の演題をなんとなく探すということができなかった

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	工学系の学会は査読付きプロシーディングによって、発表の質やプライオリティーを維持する。生物系の学会発表はほぼ査読なしのアブストのみ。それでオンラインポスター発表は相互理解やプライオリティー維持の観点で厳しい。
※	オンラインでのポスター発表は無理がある。エスタブリッシュされた研究者は良いだろうが、学生が気軽に質問できるものではない。
※	人気のあるポスターでは、ずっと待っていないと途中からしか話を聞けない点が問題であるが、それ以外は、on lineの方が見やすいし、分かりやすいように感じた。
※	ふと興味の湧いたポスター発表に入っていくのは、すぐに退出しづらいので困る。対面の発表ならば、ポイントだけ聞いたら周りの様子を見て、他の人が聞いていれば容易にその場を立ち去れる。結果的に、時間内で見えるポスター数が少なくな
※	予め録音した簡単な解説(5分以内)が聞けるといいかもしれない。
※	それぞれのポスターに何名参加しているのか情報があると良い。
※	・自分のポスター発表の時、チャット可能なことを忘れており、チャットの記録に後で気づいて結局やりとりできなかった。・ポスタープログラムから興味あるテーマのポスターを探すのが難しかった。流し見するには小さかったので、拡大縮小が必要だった。・ポスタールームに入ると、少ない人数で、特に一対一となったとき発表を聞いて質疑応答するため、時間が長くなってしまい、ポスターをいくつも見ることは難しかった。・ポスタールームに入る前にポスター発表に訪問している人数がわかると良いと思った。・オンラインでのポスター発表は難しく感じた。
※	オンラインでポスター発表をする場合は、通常のポスターは使わず口頭発表と同じ様にスライドにした方がみやすいと思う。オンラインでは自分でみたいところが自由にポスターをみえれないため、すごくストレスが溜まる印象を受けた。
※	オンラインではポスターを見に来る人が少ないように感じた。少ないが故に、ゆっくりと説明を聞いたり、質問することができてよかった。
※	発表者の外部のノイズが大きく聞きづらい時がありました。(多分、複数人が同時に発表しているためだと思います)但し、通常の大きな会場での発表と比べて、対面で話ができるのは良かったと思います。
※	参加していない
※	演者がパスワード設定してミーティングルームに入れなかったり(設定ミス?)、聴衆の数がミーティングルームに入るまでは分からないので、そのあたりはオンラインでのポスター発表の欠点だったと思う。その他は概ねよかった。
※	みなかった。演題の検索、一覧が見にくいいため、見ようと思わなかった。オンラインでのポスターはかなり難しさを感じた。
※	参加していない
※	今回の方式ではアクセスした時点で密にディスカッションを始めることになり、時間が足りずに十分なポスター発表を見るのができなかった。
※	対象の研究領域が1日にまとまっており、特にオンラインだと複数の発表を聞くことが難しいと感じました。オンサイトと違い、研究領域を1箇所にとめる必要性が低いと思うので、3日に渡って均等に配置してもいいと思いました。
※	ポスターのzoomルーム内に発表者が要るのか、また、どれくらい混んでいるのかが「外」から分からず、いちいちzoomにログインしなさいと分からないのは不便すぎだ。それをログインしなくても分かるように表示すべき
※	ポスターのサイトが使いにくかった。空いているスペースがあるので、利用すると良かったかもしれない。何人視聴しているかがわかると良いかもしれない。アブストラクトの下にポスターを載せると良かったかもしれない。
※	検索してbookmarkした演題からはポスターのPDFが見られなかった。プログラムからたどっていくとポスターのPDFが見られたが、やはり検索して選んだ演題からPDFが見られなかったのが不便だった。
※	これまでの学会でよくあった、「人ばかりでポスターが見えない、説明が聞こえない」という、問題が解消された。
※	ポスターにお客さんが何人いるか、アクセスする前にわかった方が、訪問するポスターの順番を調整しやすいと感じた。ポスター発表の説明は、5分程度にしてもらいたい。奇数、偶数、一時間ずつじゃなくて、30分(or 40分程度)ずつにして、交互に2ラウンドするのも良いかも。
※	対面のように見て回って、たまたま面白い発表を見つけることが楽しみだったが、オンラインだとそれは難しかった。
※	一回zoomで入ってしまうと、面白くなくても退出しにくいので、あまり数を見るのが出来ませんでした。見て回れる工夫がもう一つあると良いと感じました。
※	誰も質問に来てくれなかった。そのため、つながっているのか不安になった。
※	議論することを決めていたポスターに関しては、しっかりと議論できたが、会場を歩きながら流し見することができないので、思わぬ出会いが生まれにくい。
※	zoom meeting roomに入る前に、他の質問者対応中かどうか、参加人数がどの程度いるのかわかると良かった。
※	プログラム検索でヒットしても、そこから直接ポスターに移動出来ないことに非常にストレスを感じた。
※	参加していない
※	歩き回らずとも、いつでもポスターを見ることができたのは非常に良かった。しかしポスター発表時間の際には、HPへのアクセスが非常にしにくかった、アクセス数が多くても対応できるようにしてほしい。
※	散歩をしている途中に、思いのほか、興味あるポスターに出会うということが出来ず、それに関しては、寂しいと思った。
※	ポスター発表をしようと思っていたのですが、オンライン版だと長時間PDFを掲示しなければならず、データを持ち去られる可能性があるため、年会での発表を見合わせました。
※	今後もZoomと併用できると良いかもしれない。たまに不在のまま終わる方もいるので良かった。
※	会場の制約が無いのだから、もっと時間に余裕をもたせてほしい。会期中二回発表の時間を設定してもいいかもしれない。特に、オンラインだとポスターを探す時間はオンラインのほうが時間がかかる。見に行けたポスター発表が多くなかった。全ポスターの一覧と、そこから別ウインドウでポスターを開けるようなアクセスしやすいシステムを作って欲しい。
※	見知らぬ人のポスターのZoomに入るのはやや抵抗があった。知らない人とZoomで一対一になるのは、特に女性は抵抗がある気がする。Zoomに入る前に、何人入室しているか分かると良いと思った。
※	ポスターセッションが、かなりやりにくいと感じました。まずはwebのページ。どんな発表があるかかなりわかりにくかったです。jpegのサムネイル、意味ありません。また、人が多くいる場所、そうでない場所など、全くわかりません。学会会場では、通行しながら聞きに行く形ができるのがポスターのいいところですが、その良さが全くありませんでした。とにかくシステムの悪さばかりが目立つ、ポスター発表会でした。非常に残念です。来年もこのシステムなら、学会に参加しないかもしれま
※	一部のポスターにおいて、Zoomのリンクが適切でなかったようで、発表を聞くことができなかった。
※	ポスターをちらっとみて、要点だけおさえて次のポスターにいくということができない。どうしても一つのポスターに15分近くの時間をとられてしまいます。限られた時間内において、ポスターの内容をざっと閲覧できるようにしてほしい。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Zoomに入室してからでない、発表者がどのような人なのかわからない(年配の方なのか、学生なのかなど)ので、リアルなポスター発表よりも聞くのに勇気がいる。顔写真とか、職種などを掲示していれば少しは違うかもしれないと思った。あと、現在会議に何人が参加しているのかもわかればよいと思った。
※	ポスターはそもそも著者名やキーワードによる要旨集の検索からポスターそのものに飛ばず、ポスター番号を調べてそれを使って検索して、そのポスターの列に移動してから何度も横にクリックしていったり着かないといけず、一度も組織委員がテストしていないのではないかと思える酷いUIだった。
※	リモートでいつでもポスターは見られるので、紹介動画も完全オンデマンドにした方がよかったが、発表者全員が紹介動画を作ってくれるとは限らないので、次善の策としてこうなったのかと思うので仕方ない。
※	システムの難しいかもしれませんが、ポスターの混雑状況や進行状況・さらにプレゼンターの在席をプレビューできるとありがたいです。
※	画面が撮影できる等の情報セキュリティン問題がある。当研究室からの発表演題についても一部情報の制限を加えた。未発表の演題について、ディスカッションすることが困難と思われる。
※	ポスターはリアルな会場の方が、一覧性に優れているとは思いましたが、オンラインでもサムネイルなどよく工夫されていたと思いました。いつもよりも、ピンポイントに検索してそれを見に行くという方法になり、思いがけずいい発表に巡り会うというは少なかつたと思います。
※	通常のポスターに比べて割り込んで議論に加わるのが難しかったとの参加者の声があった。発表する側も、目配りが必要だったかもしれない。
※	ポスターの時間がより長ければよいが、現行のフォーマットでは難しい。シンポジウムやワークショップの数をぐっと減らして、ポスター発表の一部を、一般口頭発表数を回す試みがあってもよいかもしれない。
※	PDFで説明するのはやめたほうが良い。
※	全て口頭にした方が良かった。その上で discuss したければ演者に質問するとか？ポスターの良さがオンラインでは出ない
※	閲覧可能期間をもっと長くしてほしい
※	ネットアクセスの問題かポスター発表に入れられない、途中で落ちてしまう、という事例があった。また発表時間になっても発表者がミーティングを開始せず質疑ができずに終わった例もあった。
※	ポスターに関しては、会場で全体を眺めるということがオンラインではできないと感じたので、見逃した情報がかなりあるのではないかと思う。
※	自分の発表時間内に、他の発表を見に行けない(ZOOMには入れない)ことに、オンライン開催の限界を感じた。
※	聞きたいポスターが、自分の発表と同じ時間に重なるとう聞けない。ポスターを、小さな画面で共有しながら説明するのは難しい。ほとんどの人がカメラオフで参加していたので、どのような人が聞いているのかわからなかつた。せっかくオンラインなので、ポスター発表の時間を設けず、気になったポスターに対してチャットとかでいつでも議論できるようなスタイルで良かったのでは？zoomがものすごく重かつた。
※	指導学生の発表に関して、来訪者が限られたため、濃い議論はできたものの、幅広さはなかつた。工夫の余地があるかも知れない。
※	聴衆が少なめに感じたし、演題によっては自分1人のみ(自分が退出したら誰もいなくなる)の場合もあった。このような状況は、発表経験の少ない(特に学会発表が初めての)学生にとっては辛いのではないか。発表経験の少ない(特に学会発表が初めての)学生の発表がこのような状況にならずに、発表しては励ませるような工夫が必要ではないか。
※	これまでの形式に比べて、対話に関してはどうしても限界があると感じた。
※	Zoomだと入室しないと雰囲気分からないので、質問しづらさを感じた。オンラインで発表できること自体は歓迎だが、ポスターについてはオンラインの良さが生かせていなかったと思う。進化学会では、LinkBizでチャットでも質問ができるようになっていた。これは他の人の質問とその流れが可視化されて、何度も同じ事を聞かなくても/話さなくてもよく、新しい質問を誘導するのに効率的だった。また、見たいポスターを事前にabstractからチェックして保存しておいたが、ポスター画像が保存した状態からは見れなかつた。結局、事前チェックした意味が無かつた。
※	ポスター登録時に、zoomのリンクを本人アカウントにして、後からポスター用のミーティングを作成した人もいたようで、セッションがつかない場面が多々あった。登録の説明に改善の余地がある。
※	よくなかつた、、とは言いすぎですが、oralの発表への参加と違って、ポスター発表への参加と議論には難しさを感じました。zoomで議論されているところに顔を出して突然出ていくのはばかられ、顔を出してしまうと急にいなくなるのはばかられました。なんとなく覗いて、、という人が多かつたら他に移動、、といういつものポスター発表への気軽な参加がしにくい
※	初日の前半でアクセスが集中し、途中まで検索もできなかつたので、困りました。検索も、詳細検索ができずに、スピードも遅くストレスでした。ポスター発表から入っても、戻るボタンを押すとトップページに戻ってしまい、非常に使いづらかつたです。Zoomに気軽に入れず、対面に比べるとちょっと見て情報収集が難しかつた。
※	ワークショップへの応募ができなかつたためにポスター演題登録のモチベーションが(研究室内では)かなり下がっていました
※	オンラインのポスター発表は、相手の様子を伺い知るのが難しく(特にカメラがOFFの場合)、どの程度の説明が必要なのか、分からない。従って、全ての方に対して、序論から結論まで、一つ一つ、細かく説明した。聞いて頂いた方の中には、説明を長く感じられた方もいらっしゃるかも知れない。オンラインのポスター発表は、相手の様子を汲み取りながら、発表を進めるとオンラインに比べると、ポスター発表を見る&議論するのは難しいように感じました。
※	ポスターセッションにおいてZOOMへの入室に敷居を感じました。テキストベースの質疑応答があるとよいと思いました。
※	結局時間がなくて見られなかつた
※	要旨は英語だけ、ポスターも英語だけというやり方には無理がある。要旨は日本語でも出すようにし、ポスターは日本語表記+図の英語ラベルでも良いとすれば、分かりやすくなる。またポスタータイトルの一覧表も、冊子にして配布するべきである。Zoomで発表するのであれば、スライド形式でポスターを提出して貰っても良いはずである。通知を早めにして頂けると準備がやりやすくなる。
※	PDFを見ながら、そのまま、質疑に入れるシステムが良いと思った。PDFで発表番号をチェックしてから、発表のシステムの入らなければならず、手間取った。時間外でも議論できるシステムが欲しかつた。

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンサイトの学会だと、会に合わせて動けますが、日常生活(子供の世話)等を続けながらだと参加が厳しい時間帯が出てきました。オンサイトのタイムスケジュールに縛られないで時間を編成してもよいかと思いました。
※	夕方からのセッションは、もう少し遅い時間(夕食後)でもいいのでは？
※	セッション間のインターバルは要らない。常に何かのセッションが開催されている方が良いと思う。
※	webシステムが使いづらかった。例年の冊子体プログラム集やwebアプリのほうが使いやすいと思う。「前ページに戻る」と今は2日目なのに1日目のプログラムに戻ったり、要旨を読んですぐにzoomへ行こうとしてもリンクが無かったり、スムーズに活動できなかった。動物学会のslack型システムや、google上にポスターをアップするスタイルなど、ほかの学会でどんなシステムを採用したか調査して、今後に生かしてほしい。
※	オンデマンド配信を原則にしてこそオンライン学会のメリットがあると思う。今回の形では、興味ある発表が重なるときにどちらにもオンデマンドがないと結局オンサイトの時と同じでどちらかがきけなくなってしまう。
※	興味あるワークショップが同時刻に開催される場合、オンデマンドの、講演は後日拝聴できるのでよいのですが、そうでない講演の場合は部屋の入退室をくりかえして行き来してしまいました。現在、どの講演が進行中なのかがどこかで確認できて、それを踏まえて入室できれば便利だと思いました。
※	イブニングセッションを増やしてほしい。
※	視聴したいセッションが同じ時間に複数重なっていた。
※	海外の演者があるセッションはなるべく時差を考慮して欲しかった。あまりにも申し訳なかった。
※	後で視聴できるシステムはともありがたいです。発表済みの話など、差し支えなければもっと広がると思います。
※	ポスターもオンデマンドにして欲しい
※	企業のセミナーは、昼休みの時間帯である必要はなかった。
※	一日の聴講時間としては結構長く、さらにオンラインのため三日間の疲労はかなりなものになった。
※	18:00~18:30の休憩時間を入れていただけなのは子育て世代には大変ありがたかったです。子供のお迎えから帰ってからもフォーラムに最初から参加できました。
※	朝9時から始めて、20時に終わるとすると、かなり疲弊するので、オンラインであれくらいの分量でやるなら、もう一日増やして4日間が望ましいと感じた。
※	オンラインでは勤務先や自宅(在宅勤務)での参加となるため、遅くとも午後5時半までに終わる方が望ましいと感じた。それ以降の時間帯は、プライベート(育児や介護を含む)で有効に使いたい、勤務先での超過勤務はなるべく避けたいと考える参加者も多いはずである。
※	参加してないのでわかりません。
※	フォーラムの時間帯が遅いように感じた
※	企業のセミナーが初日のみに集中しオンデマンドのものもすくなかったので、視聴できないものが多かった。3日間にバラして、時間帯もずらして開催して欲しかった。
※	初めての試みとしては大成功だと思う。オンデマンドで聞くことができるtalkが多かったことは助かった。マイスケジュールは、昨年までのアプリの方が見易かった様に思う。
※	18時半からの時間帯は遅く感じた。
※	海外からのシンポジストやワークショップスピーカーがいる場合、時差を考慮して、時間帯の途中からでも参加可能であったりしても良いのではないかと考えた。
※	ポスターの議論の時間は、偶数・奇数ともに2時間くらいは欲しい。
※	タイムテーブル自体は本来であればそれほど悪くはないのだろうが、ワークショップ大量型はダメだと思う。多分、(気をてらい気味の)小さいテーマが分散した感じなので、聞きたいのを聞いたらもういいという感じになる。いつでも仕事に戻れるので、単なる中座でなく、飽きて、学会参加自体を辞めたくなるし、院生もやめてしまっていた。オンラインなのでよく考えた方がいい。むしろ同じ大枠のテーマ(例えば「免疫」とか「再生」とか)をずっと続けた方がいいのではないだろうか。
※	パラレルセッションが多く、限られた発表しか聞けなかった。
※	参加していない
※	17時以降の夜のセッションはなくてほしい。子どものお迎えや夕食と重複すると参加できない。上にも書いたが、オンラインで会場の制約がかからないので、ゆとりを持って長期間開催してほしい。また、
※	現実世界で開催すると、聞きたい話が同じ時刻に別々の会場で行われると、移動が大変だったり、聞くのをおきらめたりしていた。オンライン世界であれば、あちこち自由に出入りできるので、とても良かった。
※	リモートだと横で仕事ができってしまうので、日本人の英語の聞きづらさの問題もあり、あまり集中して見る気にならなかった。なので、時間帯はあまり問題ではない。
※	今回はオンライン開催が初めての試みだったため、セッション間のインターバルを長めにとられたのだと思います。インターバルを短くして、終了時間を前倒ししていただけると良いなと思いました。
※	高校生発表が最終日のフォーラムと被っているのはかわいそうだと感じた。
※	通常業務が次々と入ってくるため、学会に時間を割くことが出来ない。このため、学会どころではなかった。
※	参加していないので分からない
※	ポスターをなくすべきだった
※	ポスター発表の時間進行が、よく分からなかった。
※	大学にいたので全体に聴講が難しかった。
※	育児世代にとっては、夕方はコアタイムであり、学会と異なり託児できないので参加できない点で残念だった(保育園は園にもよるが19時くらいまで、かつ、学会会場と異なりお迎えに要する時間が発生するので、参加できない時間が生じる)。
※	全体を俯瞰していないので、回答不可。
※	午前・午後にシンポジウム系、夕方にポスターが良かったです。
※	夜間に開催されるフォーラムは時間帯が遅いせいで参加しにくかったです。

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	学会を全英語にすることのメリットはあると思うがそのメリットを活かしきれているかというよくわからない。発表者・聴衆がほぼ日本人であるワークショップでもあえて英語を使う意義があるのかどうかは改めて議論されるべきと思う。英語にしては海外からの発表者が多かったとは言えない。これだけのメグ学会であるのなら英語と日本語の両者が存在するハイブリッド学会にした方がベネフィットが享受できるのではないか。
※	すべてのワークショップが事後配信していないのが不満である。
※	全て英語だったことに不満はないが、特にそれがよかったとも感じない。発表者全員が日本語を母国語とするならば日本語で開催する、使用言語はそのシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーに一任するなど柔軟な対応があつてよいのではないだろうか。
※	専門外のセッションは、日本語で聞く方が理解しやすい。
※	コミュニケーションを図るのに母国語でない英語で発表するのはまだ無理が有る。発音が悪いので語彙表現がよくても聞きにくい発表が半数以上あるように思う。字幕、同時通訳ソフトなどでの発表補助の選択肢を加えることを検討して
※	どちらの言語でもよいが配慮は必要だと思う
※	講演の英語レベルは高いと思う。英語化には賛否両論であろうがやせ我慢しても継続する事が大事だと思う。
※	他人のことは言えませんが、日本人の英語発表は聞きづらいです。カンペを棒読みしてる割合が増え、頭に入ってきた
※	すべての講演についてオンデマンド配信にしほしい。
※	学生が内容を把握できない。
※	英語での発表を義務付けるのであれば、学会の位置づけを「国際学会」にして方が良いと思いました。例えば大会名を「International annual meeting of 」にするとか。そうすることで、本大会で発表した実績を国際学会発表業績としてカウントすることができ、発表者にとって多少なりとも英語で話したメリットがあるかと思われます。また、国際学会としての位置づけをグローバルに発信することで、海外の参加者も増えることが見込まれ、真に英語で発表することに意味合いが深まってく
※	ポスター発表を記録にしていただけるケースを作してほしい。
※	英語のプレゼンにするのであれば、半分くらい海外演者であつてもいいと思います。
※	分子生物学学会を学生の発表の練習会と、大人の英語の勉強会にしてはいけないとは思いますが。十分な議論を限られた時間では、まだできていないと感じます。
※	英語での会議とした方が活性化すると思うが必ずしも全ての演者が流暢に英語を話すわけではないのできちんと理解できなかった。
※	シンポジウム・ワークショップ共に、ベテラン教員の発表でも英語では不完全燃焼の印象が非常に強かった(発表内容・質疑応答共に)。また、自身の専門領域以外の発表では理解が難しくなることや、全て英語では、学生に聞かせるという視点が欠如していると感じられることも問題である。このままではお金を払ってまで学会員でいるメリットがなくなるため、主催者の自己満足ではなく、クオリティの維持を心掛けて欲しい。英語を導入することそのものには反対ではないため、棲み分けられるようにしてもらいたい。
※	分生の特徴の1つは幅広い分野の研究に学会中に触れることで視野を広げることができることだと思います。英語だけだと専門領域の研究は問題ないですが、自分の専門外の分野の研究内容の発表についていくのが難しいです。これでは分生の良さが半減してしまうと思いました。
※	英語トレーニングしましょう
※	当初すべて事後配信かと思っていたので見逃したセッションあり。(自分の確認ミスなのですが。。。)ただオンラインだとデータ開示が難しくあまり新しいデータを出さないといった点もあり、バランスが難しいと思いました。
※	セッションによる偏りが大きいと思うが、英語ではお話ならないトークも存在し、ものすごく損をしているように感じた。面白そうな内容でも重要な点が非常に聞き取りにくかったり、意味がうまく伝わっていないケースを多々見た。英語で日本語と同じレベルで会議を行えるのが理想であるが、現実的には聴衆としても学ぶことが格段に減ってしまうので、「どうにか」しなくてはならないように思う。
※	自分の分野以外の分野を聞くとときに英語だとわかりづらい。日本語のセッションも入れて欲しい。
※	日本人同士の英語での質疑応答は、極く一部の例外を除き、非常に分かりづらく無意味な場合が多い。何らかの対策が必要。例えば、優秀な日本語>英語同時通訳ソフト(もしあれば)を利用して、日本人同士の日本語での質疑応答を、英語
※	英語に関する賛否は諸所あると思うが、日本語での質疑応答は可能にしてもいいのではないかと、日本語でサイエンスができることも大切。なぜなら、世間に対して英語ではなく日本語でサイエンスを説明しなきゃならん時は多々あります。
※	全て英語で良い。国内大学院ですら留学生が少数派でない時代に日本語で大規模学会をやることに無理がある。
※	いったいどのくらいの外国人が参加しているのか(セッションごとに)、統計を取つてもよいと思います。スピーカーに外国人がいる場合は英語でよいですが、母語でない表現にときどき非常に理解しにくいと感じました。
※	参加してないのだからわかりませんが、全部英語で行うことはまだ無理なのかなという印象です。
※	今後は、googleなどの同時通訳などを導入した方がよいのかもしれませんが。聞きたい言語を視聴者側で自由に選択することができる時代があと数年で来るように思いますので、発表言語を指定するのは無意味になるように思います。英語が標準言語であることに変わりはないと思いますが...
※	日本語でできるシンポジウムをもっと増やすべき。
※	・外国の方がイントロのスライドに文章を入れて説明していた方がいたので理解に役立った。
※	当初から今回の大会は英語のみという目的ではあったと思うが、コロナでオンライン開催になったことを考えて、もっと柔軟に対応すべきだったのではないかと。オンラインで完全英語ということも、参加者が減った原因になっているのではな
※	事後配信は、興味のあるトークが複数重なっている時にとても有効だと感じる。
※	英語の必要だけど、日本語の発表の方がいいなあ~特に違う分野の発表を聞いたりする場合は、日本語の方が良いと思います。異なる分野の研究者の発表を聞いたりするのも、大きな学会の良いところなのでその場合は、日本語の方がすんなり入ります。
※	発表者に依存するのが良い。
※	研究は国際的なものであるので英語化を推進することは理解できるが、地方大の修士学生たちが参加できる学会が一つ減つたと思いました。
※	しかし、国際学会と位置付けることが前提である。もしそうでないならば、例年通り、英語のセッション半分、日本語のセッション半分の配分の方が良い。日本人初学者にはやはり日本語の方が伝わりやすく、分子生物学に対する関心を持ってもらいやすいと考える。

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	英語によるプレゼンのレベルが低く、聞いているのが苦痛な発表が多数あった。英語の発音の善し悪しというよりは、事前に発表練習を十分にしたかどうかが重要ではと感じられた。アーとかウーとかが何度も入って、つかえつかえのトークを聞くのは本当につらい。若手のほうが十分に練習してから発表しているのか、発音が上手でなくてもプレゼンとしては聞きやすいものが多かった。一方、名のある研究者の方々に、発表準備を十分にしたようには見えず、アーとかウーとか言いながら、つかえつかえ話すが多くて驚いた。シンポジウムやワークショップで発表する人は、もう少しきちんとプレゼンの準備をして欲しい。特にPIクラスの人たち。
※	分子生物学会は専門分野以外の知識や進捗を勉強する良い機会ですが、多くの日本人にとって、英語よりも日本語の方がその概念まで含めて深く理解することができるのではないのでしょうか。私は過去、日本人が日本語で最新の学問(の精神)を学べたことで明治以降、なんとか欧米に肩を並べることができたと思っています。外国語を得意とする人が日本語に翻訳してひろめることで、外国語を得意としないのも学問に触れられたことがその背景にあると思います。もちろん、英語を勉強することの重要性は否定しませんが、最新の学問を日本語で学べる機会は必要だと私は思っています。
※	発表自体は英語でいいと思うが、英語が下手で研究の理解力も低いオーガナイザーが、発表者に質問を伝え切れていない局面がよくあり、気になった。もっともこれは他の学会や研究会でも散見される難しい問題。
※	全て英語にしまうと、専門外の分野の講演を聞く際に専門用語の意味がわからず、内容をフォローしきれない部分があった。比較的近い分野のセッションが複数ある場合は、一方を英語、他方を日本語可とすることで、分野間での人(特に学生や若手研究員)の流動性を生み出せるのではないかと。
※	他分野の発表を気軽に聞くことができたことが良い点だったが、英語だと他分野の内容は理解が難しく残念である。
※	言語が英語なら徹底してほしかった。決まりが曖昧で、英語で準備していたのに、質問者は日本語で話しかけてきて、結局日本語で話すことになった。その後はお互いどちらの言語で話すのか迷って、余計な気を遣った。
※	学会の英語化には大賛成である。今回は、日本語での発表を希望する人のためにフォーラムが存在していて、うまく機能していたように思います。今後も、発表は基本的に英語とし、日本語話者以外を積極的に学会に呼び込めるよう、進めてもらいたいと思いました。
※	参加していない
※	国際化を目指して海外からの参加者の増加を狙うのであれば、シンポジウム・ワークショップは英語にすべき。もちろん、日本人どうしでの議論が低調にならないような工夫も必要かと思う。
※	事後配信は画期的だと思う。ぜひ継続してほしい。質疑応答は日本語で書かれた場合にはチェアが訳すなど、臨機応変に対応したらいいかと思う。オンラインのためか、時間超過が多かった気がする。もう少しゆとりを持ったスケジュールにしてもいいのかもしれない。
※	国際化を目指すのであれば国際分子生物学会で行うべきであり、“日本”分子生物学会で英語で発表する意味を感じなかった。特に今回は発表者ツールトラブルが多かったので、日本語での発表にしておけば、ここまで、発表者ツールに依存する必要はなかったと思われる。
※	分子生物学会程度の大規模の年会で、全部を英語にするのはかなり挑戦的であると思う。少しでも研究分野が違くと、細かいニュアンスが英語では伝わりにくい、または質疑応答が噛み合わない、と感じた。またオンライン学会の英語開催は全世界から気軽に参加できる反面、仮に世界の大御所ラボが参加した場合に未発表データを簡単に取り除かれてしまう可能性もある。ということで、自分が発表するならば、未発表データといってももうin pressかすぐにアクセプトされる内容に限られる。
※	英語が不得手な人の発表は、聞いていてこっちは辛い。発表言語は、英語推奨としつつも、最終的には本人に任せてはどうだろうか？英語の上手な人の発表は、とても勉強になる。うらやましいです。
※	回答者自身のことを棚に上げる意見で非常に恐縮ですが、今回のシンポジウムでは発表内容よりも、聞き取りやすい英語のスピーカーがいるシンポジウムを選んでしまいました。シンポジウム・ワークショップを全て英語にする主目的が日本語を母国語としない参加者への配慮である場合、日本語での発表に英語字幕がリアルタイムでつけばよいのになと思います。
※	国際化を考えると英語でのプレゼンテーションは仕方ないと思うが、上手く議論ができたとは思えないセッションもあった。
※	すべてのセッションを英語にするのは反対。英語に難のある研究者が高いレベルで日本語で議論する場もあるべき。英語発表の準備不足の発表者が多くいたように感じた。学会を「英語発表の練習の場」にしてほしくない。
※	zoomの試みがはつだったのに、英語しぼりだとほとんど議論が深まらないような気がした。
※	質疑応答の議論を英語で全てするのは、なかなか苦勞されているようにも思う。議論を深めるという点では、日本語で行うことが一番いいだろう。しかし、偉い先生たちが、英語での議論に苦勞しているところを若い人が見て、その重要性に気づいてくれれば、それはそれでいいのではないかと。
※	母国語で研究できるメリットを大事にすべき。科学の感性は使う言語で変わり、それが独自の研究につながっていく。また、リモート英語開催では伝えたいことの半分くらいしか伝わっていないと思われる、これを超えるのは、大規模学会の幅広い交流による研究のタネ、ヒントの創出を減少させるのでは。外国人の質疑も多くなると、英語化が誰に向けたものなのか曖昧なので、開催言語と質疑の活発さの相関とか、共同研究への発展性など定量的な分析がほしい(日本の研究力が学会の国際化で盛り返した例があるのか)。オンサイトを日本語、英語でリモートとか、年2回ずらして実施とか、これまでとは違った。
※	昨今ではGoogle翻訳などの機械翻訳が精度を高めており、原文の質が高ければ、翻訳文も十分に意味を理解できるレベルに到達しています。そこで、シンポジウム・ワークショップの講演者にあらかじめ母国語で原稿を送ってもらい、その機械翻訳文を字幕のような形で表示できるようにすれば、国籍に依らず聴衆はよりサイエンスに没頭できるのになと思います。
※	私は母国語が英語ですからとても助かりました。
※	分子生物学会では自分の専門分野でない話を聞いて発想をえる楽しみがあると思うのですが、全て英語ですと、初めての分野の発表を理解することに困難を感じました。スライドに日本語が入っていると、理解が深まると思いました。
※	先日参加したISFRCB2020では同時通訳を雇って、通訳ありで聞きたい人は、通訳ONにすると日本語で聴けた。また英語の字幕も出た(喋った音声をそのまま文字変換)。このような工夫は良いなど感じた。
※	専門的な学会ならともかく、間口の広い分子生物学会が英語だけだと、研究を始めたばかりの学生には障壁が高すぎて参加させることに躊躇させる。
※	難しい質問になると、結局は日本語で質疑応答になる場面が多々見受けられましたし、残念ながら演者も質問者も自分が言いたいことを100%伝えきれないようになっています。このシンポジウムが日本人の英語力向上のために存在するのなら仕方ありません。しかし参加者の大多数が日本人研究者であることは紛れもない事実でしょうか？日本人同士で情報交換するのに日本語では本当にダメなのではないかと？国際化だからどうしても英語というなら、昨今の自動翻訳の技術向上から考えて、日本語発表と同時に機械的な同時通訳を流すことも検討してもいいのでは？

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	英語が聞きづらく、理解不能な発表者が多かった。日本語でやってほしいし、質疑応答など意味が分からない。しかし、オンラインで聞くよりは音声の調節ができるので、良かったと思う。英語が正確な人だけが英語で話してほしい。
※	オンラインだとデータが見えるので、言語のハンデはオンサイトより小さいのでは。選ばれたワークショップで10-15分とか話す(しかもオンラインで)のに、英語で話せないとは情けなくないか？スライド、発表原稿、想定質問の準備もしない演者は、ワークショップで話さなくてよい。ポスター発表に回った私に口頭発表をさせてください。座長によっては、質疑応答での言語の使用は柔軟に対応していたので、それでよいと思う。ただし、そのためには座長も経験と事前の準備が必要。
※	残念ながら、質問がほとんど出ませんでした。発表は英語で良いですが、質疑応答は日本語OKを基本にした方が良かったかもしれません。会場の大勢の聴衆の前でマイクスタンドへ向かう緊張感がないのにも関わらず、質問にハードルがあるのが不思議な気がしました。
※	事後配信は良い試みだと思うが、数が少なかったのは残念。また分野が少し違うと英語の専門用語等が分からず理解しづらい。以前に比べて英語発表が浸透してきたので、むしろ無理に英語化を行わなくても良いように思う。
※	zoomの質疑応答の作法が成熟していないので、演者のマイクが音になっている場合、座長を飛ばして質問されていた方がいました。
※	すべて英語であるメリットを全く見いだせなかった。異分野を知ることが分子生物学会のメリットだと思うので、英語だとハードルが高いと思う。99%は日本人が参加しているし、専門性の高い学会ではないのでできるだけ日本語でよいのではないかと思う。(もちろん、研究者における英語の重要性は理解しています)
※	発表は英語、質疑応答は日本語というのは何をやりたいのかわからない
※	我々は日本語発表でした。
※	海外の発表者で、英語で話しながら、その内容を文字で表示してくれている人がいた。とても丁寧な発表に感じた。手間はかかるのかもしれないが、オンラインならではと思った。今回の年会に限らないことだが、参加者のおそらく9割は日本人である集まりにおいて、使用言語が非日本語というのは、おかしいと思う。英語では表面を追うことはできたにしても、その内容を深く理解することは難しいと思う。
※	英語だとどうしても学生の参加が減る。質問が激減する。結局、誰のための年会なのかを考えて欲しい。日本分子生物学会は日本の学会であり、国際学会ではない。ならば、日本人が一番ディスカッションしやすい形態をとるべき。
※	発表言語が英語だからという理由で海外の研究者が日本分子生物学会に参加しようと考えとは思えないので、全て英語化するというのは無駄だと思う。原稿を読み上げているだけのつまらない発表が多々あった。
※	回答できるほどの回数、参加していないので、回答不可。ただ、参加した限りでは、特に不満はなかった。オンラインだと明瞭に聞こえるし、オンサイトで参加する場合よりも、聴きやすかったように思う。
※	事後配信の期間をもっと長くしてほしい。延長を希望します。
※	英語化を推進する意図は十分に理解しています。自身では講演や講義などで英語化に対応するように努力を続けているつもりです。ただ、学生、特に英語を苦手とするような大学にあつまる学生にとっては英語での学会はハードルが高いように思います。英語というだけで発表はおろか参加も躊躇します。さらに問題は、自分の関連分野の発表はなんとか理解できたとしても、少し分野の離れた発表は全く理解が追いつかないことです。分子生物学会は日本でも最大規模の学会です。自分の専門とする分野以外の最新情報を得ることもこの学会の良い部分だと理解しています。その意味では、この学会での英語化は、その良さをスポイルすると感じます。

質問10. フォーラムについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	フォーラムのプログラムがサイトに明示されていないのは不便だと思いました。
※	フォーラムって何？
※	とても役に立った。
※	分子生物学会らしさが表れていると思う
※	自由な企画が多く楽しんだ。
※	フォーラムが20時までであると参加しにくかったです。
※	フォーラムの演者の要旨のサイトがなくて、議論できず、残念でした。ワークショップと同じ体裁にして欲しかった。
※	年会長企画フォーラムに参加予定
※	フォーラムで講演したが、ワークショップやシンポジウムと同様に時間設定ができるようにしていただきたい。
※	オンライン開催だと、参加しやすい。
※	シンポジウム、ワークショップ、フォーラムについてはオンラインの方がむしろよい。・スライドが見やすい。・音声が聞きやすい。・座席の空きや位置を気にしなくてよい。・別な講演を聞きに行くために講演途中で部屋を移ることが容易。
※	Q&A入力後、オンタイムでの司会者のレスポンスは非常に良かったです。
※	興味のあるフォーラムが重なっていた。
※	参加したかったが、時間帯が参加できない時間帯であった。
※	フォーラムの内容自体は良かったが、時間帯については工夫する余地があると思われる。特に今回は在宅勤務で参加された方も多かろうと思うので、19時までには終わるように設定すべき。
※	遅い時間帯で、この点はオンサイト時とタイムテーブルを変更し、日中の時間帯に開催して欲しかった。
※	講演プログラムがなかったのは、とても不便。誰が何時から話されるのかがわからないと参加できない。
※	フォーラムに限らず、AMEDやJST主催の各研究領域のセッションは非常によいと思った。
※	フォーラムの意味がよくわからない
※	フォーラムへの質問はこれだけですか？フォーラムも大事なプログラムの一つだと思いますが。勝手に書きますが、時間や長さなどは適切だったかと思います。むしろフォーラムが非常におもしろかったです。どうしてフォーラムは録画しての事後公開をしなかったのでしょうか。時間が被って泣く泣くやめたものが多々ありました。
※	フォーラムの扱いが中途半端に感じました。ワークショップと同様にzoomのコメント機能をつけるべきと思いました。
※	研究不正の話は興味深かった。また途中からしか聞けなかったが、コロナの話もタイムリーで良かったと思う。
※	フォーラムの伸び伸びとした雰囲気は楽しい。ワークショップがこのような雰囲気になればいいのに、と思う。現状、ワークショップとシンポジウムの違いは極めて小さい。
※	年会長企画がよかった。
※	夜間に開催されるフォーラムは時間帯が遅いせいで参加しにくかったです。

質問11. 年会の特別企画について、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Meet the Speakerではチャットだけで盛り上がりがない zoomがいい
※	“Meet the Speakers”は、入室した時に既に複数人で話が盛り上がっていると、そこに割って入るのは困難だった。まだチャット形式のほうが聞きたい質問はできたと思う。
※	特別企画ではない？が ポスターセッションがよかった。オンラインで検索するときやや使いにくいところもあった。
※	spatial.chat は使いにくかった。home page, zoomを行き来するのでプラットフォームは少ない方が楽である。しかし年を重ねれば利用者も慣れてくるだろう。
※	ランチタイムセミナーがオンラインの閲覧ページに掲載されておらず見逃すところでした。
※	meet the speakerはよかったと思う。参加にハードルが高いのか、あまり参加者がいなかったのが少し残念。
※	Meet the Speakersへのアクセスが分からなかった(残念)
※	講演者と交流することや発表内容以外の相談することが、オンラインでは難しく感じた。
※	オンライン学会の「発表後の個別質問ができない」問題への対策としてSpatialchatを用意してくださったのはとても良かったです。参加者同士の交流の場にもなりました。音声でのコミュニケーションだけでなく、チャット機能のあるgather.townなどのサービスもご検討いただけると、寝ている子供の側で参加したい人など様々な参加形式が可能になるかと思えます。セッション終了時にspatialchatへのリンクをアナウンスして頂く際、どのチャンネルに移動するのかの案内もあと良かった
※	学会でキャリアパス系いらない。もっと具体的に人事マッチングでもしてください。
※	Meet the Speakersは苦肉の策だったのだと思うが、演者以外が参加しているのは稀だった様に思う。対面ではない場合のコミュニケーションの取る方法に難しさを感じた。
※	“Meet the Speakers”にもっと参加する仕組みが欲しかった
※	Meet the Speakersはいまいち議論できなかった
※	参加していない
※	キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナーで、ポジションを得るためには「人柄」が重要であることを伝えられており、これからジョブハントをする者に良いメッセージとなったのではないかと思います。
※	Meet the Speakersは最終日だったためか、発表者以外ほとんど入室がなかった。今年初めてのことであったためだとは思いますが、PR方法を考慮したほうが良いように思う。
※	Spatial Chatは良かった。もっと前宣伝しても良いかと思った。
※	Meet the Speakersには参加していないのだけど、いいアイデアだと思う。
※	spatial.chatはWS後の打ち上げ的な利用でとてもよかった。
※	Meet the Speakers のアナウンスや使用方法を広くアピールするべき。せっかく講演者と気軽に話をする機会と思えるのに、聴衆や講演者の参加が芳しくないように思う。
※	参加しなかったので、解答不可。
※	参加していない
※	Meet the Speakersには演者が基本的には入室してほしかった。
※	高校生発表で1つぐらいの質疑応答があった方が良い。
※	Meet the Speakersは何度も覗いたが参加者が少なく、会話には参加しなかった。良い取り組みなので、工夫して継続してほしい。
※	並行したフォーラムに参加していたので、高校生発表に参加できませんでした。高校生に皆さん、ごめんなさい。
※	様々なセッションでその仕組みがわかりにくかった。
※	参加していないのでコメントできません。
※	WS演者としてmeet the speakerで他の演者と議論ができとても有意義でした。海外からの演者から、海外(アメリカ)の学会ではそのような時間が取られない場合もあり残念だ(分子生物学会にはあって良かった)というコメントもありました。演者以外の参加者は少なく、勿体ないとも感じました。
※	Spatial Chatは面白そうだったのでちょっとだけ覗いてみたが、その時間にあまり人がいなかったなので、活用には至らなかった。仕組みとしては面白いと思う。
※	サテライトシンポジウムがすばらしかった。土曜日なのももったいなかった。来年は年会期間中のランチオンに設定すべき。
※	出席していない
※	参加していないので、回答不可
※	Meet the Speakers は少し入りづらい(心理的に)ように感じました。

質問12. オンライン企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（要望・その他）

回答者番号	要望・その他記述
※	やはりオンサイトがよいです。
※	担当者や顔なじみが、すぐには解らないので、気軽さが少しかけてるのかな、と感じた
※	ビデオを事後に視聴できるのが良い。有用な情報が得られた。
※	タイムテーブルが見にくかった。
※	オンライン学会の場合、オンライン企業展示会の意味をあまり感じない。普段からHPに載せておいてくれれば良い情報ばかりのように思う。
※	人気があるセミナーでも定員制限を気にせずに参加できることにメリットを感じた。更に、オンデマンド配信も利用できるので複数のセミナーを聞けるのも良かった。
※	オンライン企業展示は学会がオンサイト開催になっても並行して続けて欲しい。時間も節約できて効率がよかった。企業にとっても効率が上がると思う。
※	プレゼンが良くないだけかも知れません。
※	- 各バーチャルフロアに入室した時、いきなり展示者の机にランダムに割り当てられ、展示者、参加者とも戸惑った。フロア移動の際には「入口」のようなサイトに最初に入らせて欲しい。- REMOのテーブルについた時に、展示資料も見られるようにして欲しい
※	例年だとお弁当が出るので昼のランチョンセミナーを聞くことができるが、今回はあらかじめ手で食事の用意をしておかないとポスターセッションの時間まで間がなくて困った。
※	積極的に見に行く人は殆どいないのではないかと思います。
※	企業のセミナーが初日のみに集中しオンデマンドのものもすくなかったので、視聴できないものが多かった。3日間にバラして、時間帯もずらして開催して欲しかった。
※	商談会としてしまうと、尻込みして参加しにくかったのではないだろうか。また、Remoが使いにくく、もっと使いやすいツールを開発してほしい。
※	やっぱり企業のヒトの話も聞いてみたいなと思いました。
※	参加していない
※	大学のネットワークを介するとRemoに接続できなかったので、学外にいる時にしかアクセスできず残念でした。
※	Remoの機能が良くわからないまま参加して、少しトラブルがありました。使い方のマニュアルが必要だと思いました。
※	展示会場で実機を見ながら議論できる方が良い部分もあるが、一方で、同じ展示に興味を持つ他の研究者が当該技術や機器にどのような感想を持っているかを聞く機会が増え、参考になった。
※	商品がないので、会話が進まない。
※	今後、オンラインでも行ってほしい。
※	会場開催ならば覗くこともあったが、オンラインだと一切参加しなかった。シンポジウムやワークショップとつなげてしまうなど、工夫が必要だおもう。
※	バグだと思うが、展示会場に入ると、自動的にどっかのブースに強制的に入室させられた。入る気のない企業ブースに入り、一対一での会話になってしまい、とても気まずかった。企業ブースは、知り合いがいるか、よほど興味がない限り、入室しない気がする。
※	録画はダメ。
※	コロナ禍において、今回の対応は致し方ないと思いますが、企業展示へ参加させる工夫があつてよいと思いました。
※	これは失敗だとおもう。使い方がよくわからない。新製品等に興味があるし、試薬の使い方等をききたいが、聞けない。また、企業系の発表で3日目になっても、オンデマンドのリンクがアクティブになってなかった。工夫の余地がある。
※	展示はそもそも全く展示に対する配慮があったように思えず、これでは今後協賛が激減するのではないかと懸念してしまう。オンサイトでも展示会場への誘導は必ずしも十分でなかったところに、今回の展示は致命的にその視点で組み上げられているように思えなかった。
※	Remoによる入室がどのような状況になるのか、あらかじめ知っておきたい。軽く見学のような形も可能だったのかな
※	普段の研究室から展示室にいったので、ちょうど今したい研究で欲しい試薬の問い合わせがすぐにでき、よい製品の購入につながったのはよかったです。しかし、Remoで展示室に入室した時に、いきなり企業の席に配置されてしまうことがわかった後、入室を躊躇するようになってしまいました。おそらく、休憩所をうまく利用しなければいけないのだと思いますが、そのあたりがよくわからなかったです。
※	オンライン企業展示会は素通りしながらチラ見するのがよいのに、蟻地獄のように待ち構えるブースにわざわざ入るのは障壁が高すぎた。
※	参加者が少なかったので、自分は思ったように話せたが、企業さん側からしたらメリットは少なかったはず。今後オンライン開催には協賛してもらえなかったら、どうしよう。
※	オンラインではぶらぶらできないので行く気が出なかった
※	参加していないのでコメントできません。
※	どこから見に行ったらよいかわからなかった。何かを買う目的ではなくふらっと見に行きたかったが、「商談」と書かれていてハードルが高いと感じた。無料サンプルとか抽選会とか毎年楽しみにしていたが、オンラインだとそういうイベントがなくなって悲しかった。書籍とかも見てみたかった。
※	オンライン展示が、別にログインする必要があり、ハードルが高かった。これまで企業展示は、明確な目的がなくても、流して製品を見る+サンプル品を貰う、という目的を達成できたが、それができなかったので、入る意味を感じなかった。見たい製品が決まっている単なる商談なら分子生物学会は不要で個別に連絡を取れば良いので、出展企業にもメリットがなさそうに感じる。企業展示も「出会いの場」であることを意識したやり方が必要に思う。
※	目的の企業ブースにたどり着くまでのステップやクリック回数が多くて面倒だった。多くの人が途中で離脱したのではないかと予想します。大幅な改善を行わないと、出典企業がかわいそうです。
※	参加していないので、回答不可

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	聴衆として参加した発表の中では、発表者のスライド全画面表示がうまくいかなかったり、発表者の接続が突然切れる(再起動?)などのトラブルが複数見受けられた。いずれもリハーサルでの事前チェックにより回避可能であったように思われるが、当人がチェックを怠ったのか、あるいはあまりにも参加者が多いことによる当日限定のトラブルなのか、検証が待た基本的に使え勝手がよくない。いつものように冊子のプログラムを作ってほしかった。
※	参加、視聴するにあたり、最低限のネット環境やシステム環境の整備が必要かと感じた。
※	スムーズなアクセスが難しかった。
※	ブックマーク機能(星マーク)は機能していなかった
※	参加証明書の入手方法がわからない
※	Twitterでの情報が不足だった(ただいま回線が混雑している、などの情報があつたら良かった)プログラムのサイトが見ずらかった。(戻るをすると日付がリセットされてる、ポスターのページの演題から直接PDFに飛べない)
※	サイトに接続しにくくなることがあり、システムの不安を感じます。
※	初めてのオンライン開催にしては、よく運営されていたと思う。細かいトラブルは今後の運営に生かして欲しい。
※	接続がわるい
※	カスペルスキーが邪魔して、Zoomのボタンが表示されなく、原因が分かるまで参加できなかった。
※	特になし
※	発表者のマイク音量が小さいときは、誰かが教えてあげるべき。
※	この学会でのZoomの使い方がよくわからず、「参加者用Zoomマニュアル」のPDFを見つけるのに手間取りました。視聴サイトのリンクをたたくとTime TableやSearchなどのページに入るので、その左側のカラムにZoomの使い方のPDFリンクが張ってあるとわかりやすかったと思います。
※	同じ時間帯の別のセッションに移動する手間が面倒に感じた
※	Webページが重い時期があった(ポスター発表が始まった時間帯)。
※	初日に、ポスター発表に参加しようとしたが、40分程度入ることが出来なかった。大変だとは思いますが、今後はこのようなことが課題かなと感じます。
※	快適なオンライン環境が整備されていました。どのようなヒトがどのように苦労されて実現したのか、後学のために教えてほしいと思いました。
※	司会者によっては、当該の視聴サイトの運用方法を十分に把握していなかったり、オンラインミーティング自体に不慣れな様子が見えたりしたので、事前準備にはもっと手間暇をかける必要があつたと思う。
※	セッション開始に合わせて視聴サイトへログインしようとしたが、当初できず、事務局に連絡して解決できた。事務局の対応は適切だったが、一度トラブルが生じると解決にどうしても時間がかかると感じた。
※	視聴サイトが開かないことがあつた
※	運営の方には非常に感謝しております。ポスターは要旨をみるとポスターを見たくても戻れないなど、使用導線には疑問は残りました。聞きたい講演、ポスターを探すのに通年よりも苦労しました。検索方法が変わったのではないのでしょうか。
※	視聴サイトのポスター発表のページを開くと、デフォルトが学会初日になっていてストレスを感じた。ポスターの抄録を開くと、戻るの機能がなく、学会初日の発表一覧のページになる等。
※	Abstractの画面にZoomやOn Demand視聴へのリンクがないことが不便です。
※	Session後のチャット機能で、deviceによっては音声のミュートが解除されずつながらなかった人が一定数いたようです。原因はわからないですが、システムトラブルの可能性はありますか?
※	もう少し早め(年会プログラムが送付されたころ)に、シンポジウムやワークショップの講演者と演題、要旨がわかるようにしてもらおうとよかった。
※	ポスター発表に参加したかったが、キーワード検索とか著者名検索の仕方が分からず、諦めた。
※	初見の人がどこでつまづくのか、予めテストをした方が良いのではないかと。3日間使って、徐々に慣れたが、あまり使いやすいシステムではなかった。
※	ブックマークに入れたポスター演題のポスターを直接見るできないのは、仕様ですか?
※	BookMarkはもっと改良できたと思う。ページは長さで切るのではなく、1日ごとに切った方がよい。どうせ手元のPCでスクロールできるのだから、ページがいくら長くてもよい。また、以前の年会アプリであったように、現在時刻の線がタイムテーブルに表示されるとわかりやすかった。
※	1つのアカウントでログインできる数に制限があり、他のPCで使用する場合、前回使用していたPCでログアウトすることが必要になる可能性などについて事前に周知して欲しかった。
※	数千人規模でのリハーサルは難しいので、アクセスが殺到して繋ぎにくくなったことは運営の責任ではないと思います。ただ視聴サイトについては、ポスターの要旨のページにzoomへのリンクがない、セッション概要ページからtimetableに戻るボタンで戻れないなど不便な点が多かったです。
※	サポートの担当者によって、対応がばらつきがあつて、それによってトラブルの対応力が変わるので、最低限のマニュアルを徹底したほうがよい。
※	細かい操作上の点で不満がありましたが(戻るボタンでうまく戻れない、要旨のページからzoomに入れられないなど)、概ね問題なかったと思います。
※	通信環境の改善が必要と感じたアクセスに時間がかかった。
※	ポスターが小さいので見づらいのと、各セッションに番号を記載して頂けると見やすい。
※	参加してないのでわかりません。
※	アクセスが集中したのか、時折、開始時間につながらないsessionがあつた。
※	全体スケジュールと個別の要旨サイトの行き来がスムーズではなかったので工夫が必要かと思う。
※	ひとつのポスターから次のポスターに行くときに、Webブラウザではやりにくかった。
※	一部REMOだったのがわかりにくかった。また、事前のメール配信が多すぎ、なにが重要で何が重要でないかがわからな
※	Zoom設定を細かく支持していただいたので難なくこなせた。ただ、周囲に本会への参加者がおらず、本当につながるのか、発表間際まで不安だった。
※	発表者への連絡がくるのが遅すぎたと思う。コロナの影響で運営の大変さも非常にわかるころではあるが、webに記載されているにもかかわらず、発表者への連絡には書かれていないことも多々あつた。

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	他の学会(日本血液学会、日本癌学会など)のweb開催に比べて、web操作の使い勝手が極めて悪かった。たとえば前日まで個人のアブストラクト集を作ることが出来なかった、日程表から目的のセッションに行く場合に、日程表が固定された日に戻ってしまう。当初はポスターの一覧がlate-breaking abstractでされておらず大変見にくかった、など4月以降多く参加したweb開催で最低の出来でした。参加費が低く抑えられていたから値段相応なのかも知れませんが、。
※	ポスター発表の時に、先に偶数番のヒトを指定してたけどあれはまちがいですよね。2日目そのままでしたが。
※	参加しなかった
※	利用していない
※	会期中の忙しいなか、こちらのトラブルに対処いただき感謝しかありません。
※	zoom発表時に、自分の発表の際にはタイマーが見えなかった。
※	検索からはポスターのPDFファイルが見られなかった
※	視聴自体は悪くないが、検索エンジンやZoomにつなげるところのサイトがここ数年で最悪といってもいいほど、使いづら
※	自分のポスター発表を本当に開始できるのか、その時刻になるまでわからず不安だった。
※	自身がオーガナイザーを務めるWSで、共同オーガナイザーがパネリストとしてログイン出来ない事態が生じ、WSの開始が僅かに遅れるなどの問題があった。
※	オンラインページを見た際に右上に出てくる学会事務局からのコメントが邪魔で、ページを移動するたびに「詳細を閉じる」を押さないといけないのがとても煩わしかった。
※	サーバーが貧弱なのか、いちいち表示に時間がかかりストレスだった。
※	ブラウザから毎回ログアウトしないと、別のデバイスから入れないことに当初気がついておらず、苦労した。複数項目で絞り込める高度な検索機能がなかったのは不便であった。
※	オンラインプログラムがとても使いにくかった。名前やキーワードで検索して、口頭発表・ポスター発表が見つかって、そこから直接発表のサイトに移動できるようになっていると良かった。
※	対応ブラウザが限定されることと、facebookの掲示位置や掲示方法が良くない。
※	参加していない
※	聴衆として参加した場合はタイマーが見えていたが、発表者の際にはタイマーが見えなかった。できれば、発表者にもタイマーが見えるようにしてほしい。
※	参加していないので視聴していない。
※	シンポジウムなどは問題なかった。ポスター発表のサイトが開始時刻直後は重くて入れなかった。また、お気に入りに入れたスケジュールサイトが、戻るたびに初日に戻ってしまうなど、使い勝手は改善の余地があった。
※	ポスターセッション部分は使いにくかった。お気に入りからポスターのPDFにいければよかったです。また、3枚ずつ表示するよりは、題名を一覧にしてくれた方が見やすいと思います。
※	運営側のサポートは完璧でした。最終日にFacebookに運営の皆さんの集合写真が掲載されたのがとても良かった。「裏方」で活躍されている方々の顔が表に出てくることは、とても大切だと思う。で本当にありがとうございました。
※	サポートは良かった。運営自体は非常に苦労して実施したことが良くわかり、短い期間でよく準備できたと思う。その一方、学会運営サイトの出来が非常に悪い。・ブックマークしても反映されないことがある。・演題の検索が手間など、数え上げればきりが無い。
※	タイムテーブルは分かりやすく利用しやすかったです。視聴会場への入り口はもっと目立たせてもよいのではないのでしょうか。特設ページへの入り口の方が目立っているし、登録ボタンと同じサイズなので押し間違いそうになりました。また、ポスター発表のところで、タイトルをクリックして要旨を確認したあと前の画面(その発表区分のポスター一覧)に戻ろうとすると、ポスターセッションの大区分(1a~)のところまで戻ってしまうのが大変不便でした。
※	当日サイトにつながりにくかった。日程表が扱いにくい。例えば、ワークショップで聞きたい発表をブラウザのタブで開いて、アブストを比べる等ができなかった。ブックマークの不具合があった。初日に全ての項目になぜかブックマークがされてしまい、解除するのに苦労した。例えば、全てのブックマークを解除する等のコマンドがあったもいいと思う。総じて、サイトの構造と繋がりが悪い。オンライン開催での最大のメリットが薄れたように思う。検索機能を含め、サイトの工夫が必要。
※	ポスターのプログラム(ポスター発表リスト)のPDFが欲しい。
※	下にも書いたが、検索能力、ポスター・展示に対してUIがよくなかった。
※	視聴サイトと、MBSJサイトのログインを統一してほしいです。いちいちネームとパスワードが違う状態では混乱します。
※	視聴サイトのUIがかなり不便だった。例えば、リストから気になる発表をクリックしたあとにリストに戻ったときに、リストのトップに戻ってしまった。また、表示ページによってはZoom・ポスタープレビュー等へのリンクがあったりなかったりした。
※	オンラインでの学会で続くのであれば、退会も検討したい。
※	参加していないので分からない
※	タイムテーブルから個別のセッションをクリックしなくても、各日の演題・演者が一覧で見られるようになっていて、便利だったかなと思いました。
※	ポスター番号はとカテゴリーがわかるように設定していただき良かった。検索してもポスター番号しか出てこず、いざ視聴する時にはポスター番号からは入れないというのは厳しかった。聞きたいポスターセッションが本番で機能していなかった。zoom設定不備でミーティングが開始できない演者に対して年会側でしっかり把握すべきで、1時間もの時間があるわけですので、その旨演者に伝える措置があっても良いかと感じた。
※	オンラインなのに、事前参加登録期間が直前までになっていないことは大いに疑問。
※	発表者側のトラブルがしばしばありました。面倒ですが、事前テストがしていなかったように感じました
※	要旨と視聴頁が分かれている点、前後の講演や前のページに戻りにくい点、などプログラムページの作り方に不満が残った
※	ワークショップで発表させていただきましたが、発表時間がわからなかったのが残念でした。
※	zoomを使った大学の講義ではトラブルが多発したので、心配していたが、どのような工夫により、完璧な運営ができたのかが知りたいです。高額なシステムだったのでしょうか。分子生物学会用に準備された特注品なのでしょうか。善意の性善説による管理は今回は成功したかもしれませんが、悪意のある見方、攻撃には無防備のように思います。想定していた対策も教えて欲しいと思います。
※	例年と比較して、サイトが使いにくい。検索などもしにくい。
※	ポスター関連のリンク構造がわかりにくく、「戻る」が聞かないのが不便だった

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	人名・キーワード検索から各セッションへのリンクがわかりにくく、より細かなリンクがあると良かった。
※	オンライン視聴で良かった点は、・普段は会場が満席で聴けないような発表が聴けた事。・パソコンを2台以上使うと、同時帯の発表を同時視聴が出来る事。オンライン視聴で悪かった点は、・臨場感がないので、話が入りづらい事。だと思
※	慣れてしまえば使えるようになるのだが、運営側の問題というよりもシステム上、使いにくさは仕方のないことと思う。
※	ポスターの閲覧がブラウザによっては見えないのを二日目に初めて知った。
※	分子生物学会のような巨大会では、場所移動だけで時間を使うので、オンラインで検索して会場間を「瞬間移動」できること自体にはメリットを感じる。コロナに関係なく、育児や講義などで出られないときの手段としては有用だ。しかし、質問がしづらい、偶然の出会いやネットワークが作りにくい、ポスター発表や企業展示でのコミュニケーションのハードルなどのデメリットもあった。デメリットは参加者のITリテラシーや、ツールの使い方改善できる可能性がある、どのように誘導すべきか、メディアコミュニケーション(?)の観点から可能性を探ると今後の発展に繋がると思う。
※	ポスターなどの日程を見て、一つ前に戻りたい場合でも初日の最初のページに戻されるのは、とてつもなく不便でした。ポスターのリンク作成など、うまくできていなかった人が多いと感じたので、わかりにくかったのではないかと思います。
※	評価できるほど参加していないので、回答不可。ただ、参加した限りでは、特にトラブルはなく、不満もなく、初めての試みなのに、非常によく運営されていると感じました。
※	発表準備の情報が逐次的に公開されて、混乱した。公開したことを告知してくれないと分からない。サイトは、例年よりも圧倒的に使いにくかった。ポスターの偶数が前半とアナウンスがあったり、接続しにくいのに何のアナウンスもなく、困った。サイト右上のポップが、ポスターの検索ボタンに重なったり、毎回毎回開くので邪魔でしようがなかった。
※	全体的にともしっかりサポートしていただきました途中で接続が不安定であったり、ログインできなくなったりといったトラブルもありましたが、はじめての試みなので仕方ないかと思いました
※	検索結果から「ポスターの流し見機能」に直接繋がらず、ポスターの項目から「ポスターの流し見機能」に入るのが、少し使い辛かった。
※	ポスターの閲覧がしにくかったです。クリックで次々ポスターが見られるとよいと思いました。
※	視聴サイトに行き着くまでの道筋がわかりにくかった。サイト変更のアナウンスの場所がわかりにくかった。

質問14. 年会終了後の約1週間、すべての一般演題ポスターデータ閲覧と一部のシンポジウム・ワークショップ講演視聴を可能としたことについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	シンポジウムで時間が重なっている興味のある発表について、後に確認できるのはありがたい。
※	フォーラムもオンデマンド視聴可能にして欲しかった
※	来年はzoomでなく「対面がやはりいい
※	シンポジウム・ワークショップについては、全てを可能としてほしかった。
※	全シンポジウム・ワークショップ講演で視聴を可能にすべき
※	事後視聴することでこれまで以上に多くの講演を聞くことができた。特に過程、その他の都合で全期間参加できない人にとっては大きなメリットで今後も続けてほしい。オンデマンド可とする講演が半分程度だった。この率を上げることが大事だろ
※	シンポジウム・ワークショップ講演を全てオンデマンド配信してほしい。
※	ポスターの記録を許可するオプションがほしいです。
※	海外の学会で、一部を「事前(1-2週間前)」に公開していて、事前に関覧が可能というケースがありました。その間に各自で視聴しておき、学会当日はQAセッションがメインという形でした。発表できる内容に制限が生じるかもしれませんが、トークが活発になりディスカッションも深まり非常に勉強になったので、そういう方法も良いかと思います。
※	ポスター発表も含めて、閲覧可能かどうかを発表者が選択できるようにするのが良いと感じた。
※	閲覧可能な演題を増やしてほしい。
※	発表の時間が重なってしまって聴き逃す問題を回避する、オンラインならではの良い取り組みだと思います。
※	オンライン形式では未発表データが出しづらい
※	ポスター発表者で1時間くらいフルに説明した方がいました。内容は面白かったのですが、他の演題に全くアクセスできなかったです。ポスター発表にも座長さんを付けてください。
※	参加してないのでわかりませんが、そもそも全てオンラインで行うことに反対です。
※	同時時間帯で聞けなかった講演を視聴することができた点、②倍速で時間を節約することが出来た点は、非常に良かった
※	聴衆としては便利ではあるが、演者としては未発表データの盗用の恐れを感じた。
※	学会後の公開期間がいつまでか学会のホームページ等をみても確認できなかった。12/8のメールで1週間とした。各種掲示が不十分だったように思われる。それから当初は半分以上がオンラインで視聴できるようにするとアナウンスされていましたが、実際に公開された演題数は少数に留まっているように思われます。
※	参加しなかった
※	なぜポスターについてののみ「すべての演題を終了後も閲覧可能」とするのかよくわからなかった。今回は、その部分がネックとなり、発表を見合わせた。
※	視聴可にしたおかげで、未発表データを本大会で発表するのが難しい。また、視聴可の期間は大会期間に限定した方が、年会の価値が上がると思う。
※	今回はリアルからオンラインへの変更が急遽決定され、オンライン年会のノウハウも蓄積していないので致し方ないが、視聴期間の延長やパラレルに行うセッション数減等は検討の余地があると思います。
※	複数の興味あるセッションが重複しても、オンデマンド視聴できるのはとても良かった。
※	公開視聴許可を学会直前まで受付けてもらえれば、もっと閲覧視聴可能な演題が増えたのではないかな。
※	事後配信のために、未発表データを話しにくい面があったと思う。
※	やはり、unpublishなdataの取扱いがonlineでは悩ましい。
※	シンポジウムやワークショップの講演の中で、後にオンデマンド聴講できるものが極めて少ない。基本すべてを閲覧できるようにしてほしい。
※	年会開催の時期的に忙しいので、1か月間は閲覧可能としてほしかったです。あるいは、可能かどうかわかりませんが、まとまった時間を確保できたときに3回までワンタイムパスワード入力で視聴可能などのルールがあればいいでしょうか。
※	よかったと思うが、オンデマンド対応の動画の数が少ない。タイムシフトのためや、分生の性質上パラレルセッションが多いことを考えても、オンデマンド配信があることはオンラインの大きな利点であり、オンサイトの学会に対する強いメリットである。例えば、オンライン配信したくない部分をカットするなどしても、なるべくオンデマンド対応するべきである。
※	フォーラムも視聴したい
※	そのようなことが可能であると知らなかった。
※	参加していないので分からない
※	1週間は短すぎますね。複数がかぶっていたらその分、時間をかけてみないといけないわけで、最低でもまとまった時間の取れる年末年始までは公開してほしい。
※	1週間視聴できることをこのアンケートで初めて知った
※	悪用される恐れはないのでしょうか？
※	一般演題も学会終了後の閲覧視聴を可能にするか否かを選択できるほうがよいかと思います。
※	・事後視聴でも、オンライン時と同様、演者の姿を見せてほしい。・発表資料の保護(不正に複写・撮影の防止)対策はしっかりしてほしい。
※	終了後も視聴できたことに気づけなかった
※	利用したいが、時間がないので、期間を延ばしてほしい。

質問15. MBSJ2020 Online視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きします <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	他の学会でのポスター発表は、テキストベースの質疑応答で非常に虚しかったが、Zoomでのコミュニケーションは良かった
※	ポスター視聴サイトが非常に重い。拡大しないと見ることができないので、流し見することはできない。
※	特になし
※	ポスターセッションをzoomシステムメインにしたのは良くなかったと思う。チャット形式であれば知らない人・気になったポスターに気軽にアクセスして質問できるが、いきなりzoomから入るのは抵抗があった。ウインドウショッピングのように、オンサイトのポスター会場では気楽にポスターを閲覧して発表者に軽く声をかけたり、思い切り詰め寄ったり、のめり込み具合を調整できるが、zoomメインのオンラインではこれができないと思う。
※	ポスター流し見機能は更に多くのポスターを見ることが望ましい。項目毎に何枚のポスターがある川刈るようにしてほしい
※	要旨のページからポスター本体へのリンクがあったらよかったと思う。
※	ポスターを見る機能が使えなかった。当方、MacからSafari、Chrome等を試したがエラーが出て、ポスターが見られなかった
※	ポスター流し見機能は軽快に動けばよかったと思うが、重くて閲覧のストレスが大きかった。検索結果からzoomのリンクへ飛べるとよかった。ポスターごとにコメントを残せるようにしていつでも議論が出来るようになった。
※	Q&Aボックスへの質問にお答えを頂いたのに、その場では感想もお礼も伝えられずにもどかしかったので、ダイレクトメッセージ機能を利用した。
※	ポスターを探して見に行く操作性があまり良くなかった
※	視聴サイトのポスター流し見機能(オンサイトの感覚で、ポスターのサムネイルをざっと眺め、興味のあるポスターを詳しく見ることが出来る機能これは、そこにいきつきにくく、サムネイルも小さすぎるため機能したとは思えませんでした。
※	非常によくできていたと思います！特にポスターセッションはオンサイトでの開催と比べて疲労度が激減して見やすさが抜群によかった
※	6.に関しては使わなかったですが、あるとよいと思います。
※	特になし。
※	ポスターのサムネイルが3つしか見えなかったので、一度にもっと見えるようにしてほしい
※	使いこなせていないので回答できない。
※	Spatial.chat(講演終了後に講演者と議論できるトークルーム)は、慣れないせいか、何となく利用しにくい。
※	spatialchatが設置されることやダイレクトメッセージがメールで通知されることについて、事前にアナウンスがあるとよかったと思います。特にspatialchatについては、座長が事前に知っていれば参加を誘導する工夫ができたかと思いました。
※	特別良かったものはない。平均的。
※	参加してないのでわかりません。
※	良かったものはない。
※	参加しなかった
※	ポスター演題をトップから流して確認する際、興味のある演題について要旨をみて、再度一覧サイトに戻ると、ポスターの先頭に戻ってしまうため、不便を感じた。
※	特になし
※	よかったと感じたものはなかった
※	ポスター流し見機能に気づかず、事前に把握しておけばより効率的にpポスターを聞くことが出来た。
※	参加していない
※	特に無し。
※	Zoomのみでの発表とのことだったので参加を取りやめた。発表方法も発表者によって選択させてほしい。例えば、PowerPoint内容に発表を録音でWeb視聴(質問はchat形式や後日質問者にメールで回答など)という方法もあっていいか
※	トークのQ&A。
※	自分用のプログラム(時間割)作成ツールについて、セッションごとではなく講演ごとに時間割が作れると便利だったと思
※	質疑応答が文字だけというのは・・・?
※	ポスターの流し見機能、プログラムのブラウジングなどが今後さらに使いやすくなっていくことを期待します。
※	サムネイルを流し見できる機能があることを知らなかった
※	ポスター流し見機能これは、とにかく重かった。複数のブラウザのタブでポスターを開けるようにしてもらおうと助かる。アブストやタイトルでは興味をひかないが、ポスターを見て興味をもつ発表を自分で一覧できるから。
※	Spatial.chatはよく機能していたと思われる。ポスター会場、展示会場、オンラインプログラムはかなりの改善を要すると思われる。オンライン要旨集は紙のものよりも情報量が少なく、例えばある研究者がセッションの座長をしている場合、その人の名前を検索すると座長を担当している時間だけが示され、セッション名もそのセッションにつながるリンクもないなど、こちらもテストやUIがあまりに不十分に思える。
※	ポスター流し見機能があることに気が付かなかった。
※	現場に行かないと通常業務から解放されず、全くほったらかしとなった。
※	参加していないので分からない
※	チャットは、機能的には良いのかもしれないけど使い方がよくわからなくて残念でした。
※	ポスターの見方の説明がなかったので、試行錯誤に苦勞した。
※	ポスターは少人数なのでZOOMとの相性が良かったと思う。
※	自分のセッション以外参加できませんでした。
※	特にありません
※	zoomはイマイチ信用できないので、他のシステムにして欲しかった。
※	bookmarkで個々のポスターが選べず、セッション全体が選ばれてしまい、自分の要旨集があまり機能的でなかった
※	視聴サイトのコメント機能が右の下の方にあり、気づかなかった。
※	視聴サイトのポスターはもっと簡単に見られればよいと思いました。
※	Spatial.chatは面白いシステムだったが、私自身も周りの方々でもトラブルが多発していた。他の方法の方が良かったと思

質問16. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	3と4を隔年に行うのが良いと思う
※	興味のあるポスターを、オンラインで探せるのは便利だった。オンサイト開催になっても、会期中はこのシステムを使用した私のように診療業務と研究を並行している立場からしますと、オンライン開催は予定の調整がたやすく、非常に助かります。来年以降も、完全オンライン化を強く希望いたします。
※	基本はオンラインでいいと思う。サテライトミーティングをオンサイトで開催し、その状況をオンラインで流すのは参加する人にもしない人にも便利でいいと思う。
※	オンライン開催では、自分の仕事と並行しながら聞きたい発表を聞けることに満足していた(2.3の他学会に参加してそう感じていた)。しかし分子生物学会のような巨大なスケールになると、仕事も発表聴講も中途半端で、例年のように学会で頑張って勉強する気持ちになれなかった。オンサイトは出張が面倒だが、気持ちを切り替えて学会参加するには適切な方法
※	セッション参加人数が多くても、座ってみられるのはオンラインの良いところ。今後も対面とオンラインの両方があるのも良いと思った。会場の廊下や休憩室でオンラインで視聴できるなど。
※	学生の交通費負担を解消するためにオンライン、オンデマンドは続けるべき。また、オンサイトとオンラインの内容は同一
※	たまには完全オンラインも良いと思いました。出張費もかからない。感染症がある間は完全オンラインでいいと思います。でもコロナが落ち着いたら、オンサイト3回にオンライン1回程度がいいかもしれません。ハイブリッドはあまりメリットを感じ
※	今回の経験でオンライン開催の利点が見えてきたと思う。オンライン開催をメインとして別途、安全確保が容易な小規模のオンサイト集会を企画するのが良いのではないかと
※	ワクチンの効果、普及や特効薬の開発の有無によってどの対応が良いかわかってきてしまうと思います。ただし、分子生物学会は、開催が12月であること、参加者数が多いことから、より小規模の夏開催の学会よりも慎重な対応をせざるを得ないでしょう。学会が開催できないよりは、開催できた方が良くと思います。一方で競合の可能性が高く未投稿の研究内容は、オンデマンド配信を選びにくいので感染症のリスクが低下すれば、オンサイト開催の方が良いと思います。ハイブリッド形式にするならオンラインとオンサイトの日を分けておくほうが良いと思います。
※	VR技術が大きく進展すれば完全オンライン開催でもいいのかと思いますが、...
※	家庭の事情で出張が難しいので是非今後もオンラインでの参加が出来るようにしてほしい。シンポジウム・ワークショップ間の移動も簡単に、例年より幅広い内容をきくことが出来、楽しめた。
※	オンラインを導入することで、開催地の選択の幅も増えるのではないかと
※	教員の立場からすると、現地に行くことで雑務から物理的かつ強制的に解放されるため、現地開催の方が学会参加に専念しやすい。また、現地開催の一つのメリットとして、分子生物学会でなければ出会うことのできない人たちとの懇親を深めるため、ご当地料理などを楽しみながら交流することができることが挙げられる。完全オンライン開催にしてしまうとこれができなくなり、学会参加の魅力が多少なりとも損なわれると思う。
※	コロナのことが収束すれば、オンサイトが基本とした方がよいと思います。ただ、いろいろな事情や考えもあると思いますので、シンポジウムやワークショップをオンラインで聞けるようにするという選択肢があった方がよいのかなと感じます。
※	職場で参加していたのでマイクやカメラをオンにすることができず、双方向性を確保した議論ができなかった。更に、学会視聴中でも学内業務などで呼ばれるなど、中断を余儀なくされることが多々あったので、職場と切り離す必要を感じた。研究発表を聞くだけことはオンラインで可能でも、それは年会の参加目的の一部であり、議論を深めること、予定・偶然両方で研究者同士の交流を図ること、多くの参加者たちが研究に取り組む姿や雰囲気から学術的刺激を受けることなどが参加目的で重要な部分を占めるので、やはりオンサイト開催が必要だと感じた。
※	ハイブリッド開催は費用や運営側の負担が大きいのではないかと感じる。
※	国際化を進めるのであれば、オンライン開催し、海外演者を増やすとよい。
※	シンポジウムやワークショップはオンラインで十分だが、ポスターセッションはオンサイトの方が効果的に議論ができると
※	ポスター発表はオンサイト開催のほうがよい
※	毎年大学での講義日程と重なり、また学齢期の子どもがいるのでオンサイトの学会に参加できない年が続いていましたが、今年は講義もオンデマンドのオンライン講義になり、また学会にも自宅から離れずに(出張費もかけずに)参加できるようになったので、数年ぶりに参加でき、非常に嬉しく思いました。オンサイトでの参加を希望する会員も多いだろうとは思いますが、今後もオンライン参加を中心に、或いはオンラインでも不自由なく参加できるように形態にしていただけると有難い
※	コロナが終息しても、Webで参加できるシステムを残してほしい。授業や会議等が入っていても終了後にすぐに参加できるのは便利だった。
※	オンサイト開催で良いし、これ以上凝った演出は必要ないと思います。
※	オンサイトを併用するならば、小規模に分割する方が、議論も活発になりそう。
※	完全オンサイトか完全オンラインのどちらが良い。完全オンサイトの一部はオンライン(オンデマンド)でも良いと思う。
※	やはりオンサイトの方が交流ができるので圧倒的に良い。ただ、予定が合わないひとのためにも、オンラインのメリットがよくわかった。今後はほとんどの学会がハイブリッド型になるだろうと感じた。
※	すべてはコロナの状況自体だと思います。オンサイトはやはり基盤とすべきだと思います。ただ、基調講演や一部の企業展示などをオンラインで参加できるシステムが併用されてもいいと思います。特に基調講演というのはそのくらい遠隔からでも聞く価値のある演者でかつそんなに頻りに聞けない人なのでは？
※	講演はオンラインでも問題ないが、ポスターはオンサイトの方がよりよいのではと感じた。
※	・完全オンラインを基本とし、数年に1回はハイブリッド開催とするのがよいと思う。・オンサイトのみの回は不要。
※	「オンラインで充分」というのは、ある程度キャリアを積み、自分のために必要なものとそうでないものの区別が付き、既にある程度の知己がいる研究者の、自分勝手なたわごと。学生、大学院生、最近この分野に参入した研究者、の事を考えれば、(分子生物学会のようなタイプの学会では)オンライン開催が無意味なことはわかるはず。
※	プレナリーレクチャーやシンポジウムなどestablishedした歴史的な講演内容は、オンラインで行う方が多くの人が見やすいと思う。海外の著名な先生なども低コストでよびやすいように感じる。up-to-datesなワークショップやポスターはオンサイトでやる方が発表者数が増えると思う。
※	Zoomもスムーズに閲覧できましたし、自分のいる場所から参加できるので、オンライン開催に参加してよかったです。オンライン開催の長短ありますし、あらためて学会に集って対面でディスカッションするのは大事だと感じました。ただ、コロナ禍であるための措置だと思っておりますので、来年はオンサイト開催できることを願っています。
※	向こう数年は、完全なオンサイトの開催は難しく感じる。ハイブリッドの場合、講義などを休めず参加することが難しいという意見も聞いたため、なかなか判断が難しい様思う。

質問16. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	主催者は大変だと思いますが、ハイブリッドが可能であれば、年会への参加者の幅が広がると思います。子育てや介護などでオンサイトでの参加が難しい人の参加が見込めること、(時差を気にしなければ)海外ゲストも呼びやすいこと、最終日午後でも人が減らないこと、などオンラインの良さがあると思います。
※	ポスターはオンサイト、口頭発表はほとんどをオンラインにするなど、オンオフをはっきりさせるのが良いと思う。
※	オンサイトに限ると思いました。
※	学会は、オンサイトが基本だと思います。コロナが収束するまでは、完全オンライン、終息後はオンサイトが望ましいと思えます。
※	いろいろな事情—授業、介護、看護、子供のいる家族など—によって、オンサイトで出かけていくことが難しい人もいます。ですから、今回のようなオンラインの実施は是非とも継続して欲しいし、その時間でないとダメなのではなく、1ヶ月くらいのアクセス、質問ができるとういことです。保育ルームがあればよいというのは一つの考えですが、家で世話をすることを実現できるオンデマンドはありがたいです。「授業、介護、看護」の問題もふまえて検討ください。
※	ハイブリッド開催をしてくれれば、所用で会場に入れない場合でも参加できるといったメリットは大きい
※	オンラインじゃない方がいい。
※	海外からの講演者はオンラインの方が参加・承知しやすいと思います。
※	オンラインを経験し、オンサイトの必然性を感じなかった。それ以上に学会場での交流をオンラインでもできるように、パーティールームなどがあっても良かったかもしれない。
※	「Withコロナ」がどのように展開、終息するかわからないが、学会はやはりオンサイト、リアルタイムがいいかと再確認した。一方でオンライン開催の利点もあることはよくわかった。費用対効果を考えると、完全オンサイトかオンラインのどちらかにすべきと思う。ハイブリッドは良くないと思う。例えば、隔年でオンラインとオンサイトを交互開催とする、というのがよいかも。生化学会との棲み分けが問題になっているので、分生と生化的のオンライン・オンサイトを組み合わせる方式で
※	感染状況にも依存するのではないのでしょうか。オンラインも思ったより良かったと思います。
※	オンサイトを基本とするが、スポット的にオンラインを使用しても良いと思う。
※	ポスター発表の質疑応答は、オンラインでは難しいように感じました。
※	オンライン発表およびその後の動画配信があると、仮にオンサイトで他のセッションと重なったために逃した講演などを視聴できるので、良いと思う。
※	毎年、年末は分子生物学会で、その足で知り合いと忘年会がいつものコースだった。これがなくなるのは残念だが、オンライン開催がここまで快適とは思わなかった。通常開催に戻れるか心配です。
※	来年度はCOVIDの影響もありまだ完全オンラインにした方がよい。オンサイトで個人個人が会うことによる議論の促進効果は無視できないので、COVIDの状況が許せばオンサイトでの開催が望ましいが、参加のバリアフリー化(子育てや介護など、オンサイトでの開催が叶わない人など)のためにも、オンラインでの参加は積極的に起こっていくべきだと思われる。
※	オンライン学会になれるにつれて、デメリットが減り、メリットが増えることを期待できると思います。コロナが収束しても、また「学会はどういうふうにするべきか」をいちから考え直すチャンスです。
※	口頭発表がオンラインで参加、視聴可能なのはよいと思えました。ポスターはできればオンサイトがよいと思えました。オンラインだと、個室のない学生などは参加が難しそうだったので、メインはオンサイトで、普段多忙で学会に来られないような先生方のお話をオンラインを使用して伺えるなどのメリットがあればハイブリッドがよいと思えました。
※	感染状況による
※	費用面や育児等で現地に行けないことが多々あるのでオンラインでも参加できるのは非常にメリットがあります。一方で、やはり会って、話す中で次のアイデアも浮かぶと思うのでオンサイトの場もあると良いと思います。近年、分子生物学会も規模が大きくなって場所や会場に難儀していると思いますが、オンラインで参加する人が増えれば小さい会場でも開催可能なのではないのでしょうか。
※	オンラインは便利で素晴らしく、配信があるのはとても助かります。聞きたいものが被ってしまっていて聞けないことが頻繁にある学会なので、録画配信が併用されていると嬉しい。
※	当面はその時々状況、主催者の判断で試行錯誤してみたらよいのではないのでしょうか
※	会場への移動費用や、会期中の部屋の移動を考えると、オンライン以外ありえない。
※	自宅あるいは職場にいながらにして、複数の会場を歩き来して予め調べておいた発表を全て聞くことができ、議論もできた。例年以上に実りが多かった。オンラインのよい面はたくさんあると納得。オンサイトのみのというものは、もうあり得ず、その考え方は捨て去った方が前進できると思う。
※	年会費、参加費が安くなる方法をとってほしい
※	年会長に一任して、どのような考えで、開催したいかの希望に従うのが良いと思います。
※	可能であればオンサイトが良いが、ウイルス流行状況による
※	オンサイトは理想になってしまったと感じる。あの混雑は、分子生物学会の素晴らしいところだったが、もはやあれを再現させることは不可能である。仕方なくオンラインでやるのが現実と思う。
※	参加者としては、コロナ後は、基本的にはオンサイトで参加、どうしても都合がつかない場合にオンライン(非常手段)として、参加していきたい。その場合、未発表データはオンサイトでの特典(?)、オンラインでは未発表データは見せない、となっても受け入れられる。
※	オンライン参加にも様々なメリットがあると実感できたので、希望すればオンライン参加も選択肢として存在するとありがたいです。子育て世代の研究者も参加しやすくなるのではないのでしょうか。
※	まだ明確な答えは持ち合わせていませんが、オンラインでの学会参加というのはなによりも、いろいろと忙しい業務の合間に、仕事の連続性を犠牲にせずに、気軽にアカデミックな場に参加できるということが非常に大きな魅力でした。こういう形を今後も体験したいという気持ちは非常に強い。もちろん、オンサイトでやる良さというものはあり、オンラインばかりになるのも問題化と思いますが、。少なくとも、ハイブリッドというのは非常に中途半端で、イメージが湧きません。非効率で、いろいろと面倒な問題が生まれるように思います。
※	ポスターはオンサイトで、シンポジウムなどはオンサイトとオンラインのハイブリッドで。ポスターのデータ流出のリスクが高いので、最新の発表は今後したくないと思います。
※	できればオンサイトが良いと思いますが、今後の社会状況によると思います。

質問17. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンラインプログラムとオンサイトプログラムの併用)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターの閲覧は3日間以内にしてほしい。
※	一般演題のポスターは、システム上ダウンロードできないようになっていなければならないならば、PDFをアップロードすることに抵抗はないが、未発表データは用いない。ただし、ポスターセッションでは、未発表データを含むスライドを別途作成して、発表した
※	許可してくれる人のみ事後配信すればよい問題ではないのでしょうか。
※	未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影の懸念があるかぎり、演者はそれを警戒して萎縮する
※	特になし
※	ポスターデータがどれだけ不正入手されたか調査しようがないと思うが、例年訪れるポスターカテゴリーの常連発表チームがごっそり居なかったところを散見するに、オンラインデータ公表には抵抗があるんだろうなと感じた。研究者がアクティビティを最大限に発揮するには、オンサイトしかないと思う。
※	今回はオンデマンド配信の意味を理解していない人もいたようだ。
※	期限があるなら許容する。
※	ポスター閲覧はオンラインシステムは圧倒的によかったが、実際に未発表データが殆どの学生のポスター発表をオンラインでさせるかと言われるとあまり前向きではありません。上述したようにものすごく多くの閲覧者がいるにもかかわらず実際にウェビナーに入ってくる人が殆どいないと、学生にはなんのメリットもないし、未発表データをさらすだけです。開催者の立場にたっとうしたらいいか考えると難しいところです、
※	だれがアクセスしたかが確実に追跡できるのであれば自分としては許容したいと思います。
※	シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信は許可するが、未発表データは削除させてもらう(編集して配信)。
※	撮影禁止のマークが出ていましたが、複写・撮影したら運営側でわかるのでしょうか。わからないなら、発表する際はそれを覚悟する必要があります。
※	高解像度の一般演題のPDFポスターアップロードは、もし流出した場合(特に海外)を考えると、少し抵抗感がある。
※	演者の判断で選択できるようにすべき。ZOOMで見せたもののみ提示できるようにすることや、talkのときは未発表データがあっても、オンデマンド視聴ではそこを削除出来たり、音声のみにできたり、あとから編集できる余地を残してほしい。
※	論文として発表済みか、投稿中か(preprintを公開している場合も含む)、まだ投稿していないか、それぞれの状況によって考え方が異なる。また、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念も人によって考え方が異なる。事後配信の許諾や未発表データをどこまで含めるかは、発表者に判断してもらえば良いと思う。学会ではできるだけ新しい(未発表の)話題を提供して、議論することが望ましいと考える。
※	工学系のような査読付き学会にならない限りはオンライン学会発表が厳しい。
※	盗んでやろうという研究者がいる可能性がある限り(すなわちほぼ永遠に)、事後配信やダウンロードの許可はしません。
※	今回演者として発表して、この件が非常に気になった。学会としてはアジアからの参加者の増加に期待しているのかもしれないが、現地へ行かなくても参加でできるためそのぶん盗用の危険性も大きく増える様に思う。もし何かあった時に学会が保証してくれるわけでもないの、今後は未発表データを発表するのは非常にためられる。
※	分子生物学会は、同時時間帯にかなり多くのセッションが開催されますので、一つのセッション会場にしか行けないという問題がありました。今回オンデマンド視聴を可能として頂いたことで、通常では聞けなかった講演を聞くことができ、大変良かったです。また、英語講演が途中で一時停止できるというのも、学生たちには好評でした。オンデマンド視聴は、今後も続けて頂ければと思います。
※	事後配信の有無は個別に確認する本大会の方針で良いと思った。
※	どのような制限をつけてもスクリーンショットや録画はできてしまうので、未発表データの公開を控えるようになるのは致し方ないと思います。
※	今回自身の発表を行わなかった理由は、容易にデータをデジタル化して得られてしまうことである。今後オンラインでの発表機会があってもやはり未発表データの配信は遠慮したい。ポスターもPDFダウンロードできないとしても、スクリーンショットで得られてしまう。他学会で配信動画やポスターのスクリーンショットがよく行われていると耳にしている。
※	学会参加登録時には事後配信について心配しており配信しないことを選んだが、学会直前には事後配信により多くの人に見てもらいたいと思った。可能であれば、今後は、発表演題の事後配信の許可を学会直前まで受付けてほしい。
※	オンラインで行っている以上、複写や撮影は行われるので自己責任にて判断(発表)するしかない。あとは登録者(学会参加者)の識別ぐらい。。。
※	未発表データを学会で発表するかどうかは、発表者側の判断に任せたら良いと思う。オンライン学会である以上、情報漏洩のリスクは覚悟の上で参加する必要がある。
※	オンサイトの国際学会に出席した時、撮影禁止を開会宣言、会場ボード内で再三確認していたにも関わらず、堂々とスマホでスライドやポスターが撮影されていることにショックを受けた経験があります。オンラインでもオンサイトでも、そのような懸念は残るような気がしています。
※	オンライン学会のよいことはオンデマンドで複数セッションの話をきけたり、倍速で聴けたり、タイムシフトできることなので、極力オンデマンド配信が可能な方法でやれると良い。また、そうすると質疑がリアルタイムでできないので、何かしらの方法でタイムシフトで質疑ができる方法が欲しい。
※	未発表データでもすべて学会で発表、配信、コピー、などすることに抵抗がありません。
※	会員でないと見られないサイトに置いている以上、不特定多数に見られるわけではない。学会で発表した時点で誰かに知られたらと思った方がいい。今はプレプリントなどで迅速に成果を発表する方法もあるし、懸念があるなら安全側に倒して発表すれば良い。
※	参加の規定で、キャプチャーは禁止ということになっていたが、実際に、誰かがデータやポスターをキャプチャーしたかどうかについて、大会運営側は、全く把握できていないのではないのでしょうか。
※	どうしても未発表データの踏み込んだ発表は控えることになると思う。
※	オンラインでは、参加登録していないのに視聴する～データ盗用等の不正を防げないと思う。
※	ポスターのPDFをダウンロードできなくても、必要なところを大きく表示してスクリーンショットを撮ることも考えられるので、未発表のデータは含めない。
※	改行がおかしい。こういう配慮が足りていなかったと思います。スクショができるので、不正防止はできない。
※	ポスターのスクリーンショットが不可になっていたのはよかったが、Zoomで可能なのは仕方ないのですね。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	正会員5000円は安いと思いました。フォーラムから別のフォーラムへの移動が瞬時にできていいです。
※	この参加費はちょうど良い価格かと思えます。とてもありがたいです。
※	これだけの規模でのオンライン開催は前例がないとおもうので、多少のトラブルがあったとしても成功裏に終了したことは大変素晴らしい。一方、トラブルはひとつひとつ解決法を見つけていくことが来年以降あるいは他の学会への貢献になると思う。一方、使用言語に関しては毎年コロコロ変わるの不安定さを感じるので、難しい問題ではあるが、ある程度学会としての統一見解を出し、毎年同じ形式にしてほしいと思う。
※	幕張メッセでやる会があるようですが、あそこは遠くて不便なのでやめてほしいです。
※	ポスター発表で、常にビデオ機能をオンにしていなかった参加者がいたが、オンサイト開催であれば、顔を合わせるはずなので、常にビデオオンでないと、ポスター発表に参加できないようにしても良いのでは無いか？
※	最新の研究成果を知ることができ、研究者とのコミュニケーションも自由にできるので、学会の価値は十分に高いと考えられ、参加費は以下の範囲でもう少し高くても良いのではないかと思う。正会員：5,000-6,000円学生会員：2000-3000円学部学生：1000-2000円金額をあまり安くすぎると、発表資料を不正に利用する可能性が高くなるように感じる。
※	やはり会場開催と比較して入手できる情報量、直接交流によるメリットが劣るので、オンサイト、オンラインで参加費用が変わらないのはどうかと思う。学生から「参加費は安いが入会・年会費を考えると高いと思う」と言われた。
※	オンラインだとすこし高く感じる。
※	参加者人数にもよるが、回線トラブルが無ければ安いと思うが、繋がりにくくて目的の講演が聞けなかったなら高いと思う。
※	参加費は、大よそ適当だと思います。
※	次回もこのくらいの額に設定して欲しい。
※	年会終了後、オンデマンドで視聴できることを考えると、正会員の会費は十分安いと思います。学生の会費(事前登録)が非常に低額で、大変ありがたいです。
※	参加費は適正と感じる。
※	オンライン開催運営を成功させるために工夫は感じられたが、プログラム自体がオンラインで大成功するためのアイデアが乏しく、ほぼ通念通りの現地開催版と構成が変わっていないのが、残念だ。オンラインのメリットを生かしたプログラム編集を期待します。
※	この年会の内容であれば安いと思った。通常開催であれば見逃してしまう発表(発表時間の被りなど)も、学会後に講演を見ることが可能であるのも良いと思う。
※	事後配信や事後ポスター閲覧も可能であるとのことで、それでこの価格は適切だろう(他の基礎研究系オンライン学会では正会員参加費が1万円を超えるものもある)。
※	ポスター閲覧のオンライン検索をより便利にしてほしい。ポスターのトップページにポスター番号を書くなど、使っていて不便な箇所があった。すぐ前にページに戻りたいのに最初まで戻ってしまったりなど。
※	リーズナブルな価格であり、特に学生の負担軽減策として有効。
※	学生会員の参加費は安すぎる。分子生物学会は学生も発表しやすい場ですし、発表すれば所属研究室から参加費を出してもらえらるでしょう。学生の参加費はもっと高くてもいい(3000円位)と思います。その分、年会費を下げてください。
※	金額は現行で適正だと思います。オンライン開催のノウハウを他学会にも手ほどきしていただく機会があると助かります。
※	正会員6000円は安いと感じました
※	苦勞も判るが、オンラインだと参加費が高く感じる。
※	口頭発表は一般演題からの採用がある方がよいと感じた。
※	ハイブリッド開催が良いと思います。
※	正会員事前：5,000円は安いと思う。
※	旅費がかからないですし、参加費設定は高くは感じませんでした。
※	学部学生の参加費を安くする意味を余り感じない。
※	早く生化学会と合同でやって欲しい。
※	会費を安くしてくれた事に感謝している。オンラインとオンサイトで会費が変わらなければ、参加しなかったと思う。
※	新型コロナウイルス感染防止に尽力された関係者に敬意を払いたいです。苦勞の背景、裏話を教えていただきたいです。
※	正会員で事前参加登録したので、5,000円ならば今回の内容に対して安いと感じた。毎年NBRPブースで変化アサガオのタネを頂くの楽しみにしていたので、今回はそれがかなわず残念だった。Remoは参加者がほとんどいなかったで流し見することができない雰囲気を感じてしまい、各テーブルでお話を伺う気持ちになれなかった。組織委員会の皆様におかれましては、研究環境や教育環境についても様々な困難に対応する必要が多々あったことと存じますが、年会開催に向けてご検討・ご尽力頂き、心よりお礼申し上げます。
※	完全オンライン開催であるならば、もう少し安いと助かる。学生が千円なのはとてもよい。
※	子育て、介護、講義の過密などにより、出張できる時間がない人にとって、オンライン開催の学会というのは救世主になる予感がしました。ランチセミナーで留学を促進するセッションがありましたが、今後は留学だけでなくオンラインを最大限に駆使したキャリアパスもできてくるかもしれません。海外在中の研究者もたくさん参加されていて、刺激を受けました。女性-男性、研究環境の貧富、国内-国外など、無数の壁を打ち破るヒントがオンラインにあることを感じさせてくれる学会で、とても参加費はこんなものかと思う
※	非常に限られた予算と時間で、このような素晴らしい会を開催していただき誠に感謝しております。今後よりアクセスのしやすく、見やすい学会になっていくと思いますので、どうかこのようなアプローチも続けていただき、多くの人が分子生物学に触れられる機会を増やしていただきたいと思います。
※	オンライン開催で旅費がないぶん参加者としては非常に有意義だったと思います。初めてのオンライン開催でやや心配でしたが非常にいい会議だったと感じました。組織委員会の皆様のご尽力に感謝申し上げます。
※	もう少し安くしてほしい
※	Onlineの年会は、参加しやすく、大変便利でした。学会開催の新たな形式ができたようで、ハイブリッド学会など、意欲的な開催を希望します。
※	Web開催は当初は新鮮味もあって良かったが、Web開催ばかりだとやはりつまらなく感じるようになりました。また、出張していないので、会期中でも日常の雑務が普通に届くので、学会に没頭できません。早くコロナが終息して、来年は対面での開催になることを願っております。
※	安くて参加しやすいいと思います。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	オンライン開催で会場費等の節約になるなら、もっと安くできるのではないかと思います。
※	繰り返しになるが重要なので、今後の使用言語については、明確な計画が必要と強く感じました。10年単位で研究者層の英語力の向上を見据えて、単年でみると損が出て我慢強くやっていくのか、それとも日本語のセッションも復活させるかとともに高い。オンラインの時も、いつも高い。
※	実際にどのくらい費用がかかったのかは、後日公開されると思うので、それに基づいて、今後は赤字にも黒字にもならない程度の会費設定をお願いしたい。
※	うまく、設計されていて、組織委員会の熱意を感じました。どこの発表が盛り上げているかが、一目ではわかるページがあると、オンラインに近づくなど、改善点はあると思います。もっと、洗練させれば、起業できるのでは。
※	参加費の設定は妥当ではないかと考える。しかし、今年は英語のセッションだけだったので、興味本位でいろいろな分野の話が聞きにくかった。
※	年会費は適切であった。
※	オンラインで5000円は高いと感じた。2000円ぐらいでよい？
※	このような大変な時期にもものすごく丁寧な準備をされて盛況な会になったと思います。執行部の先生方のご尽力に敬意を表します。一方で、オンライン特有の課題はアンケート等々からみえてくると思います。それらを公開して、小さな研究会などでも問題を改善していけるよう、分子生物学会が先進的に提示できるようにしていただきたいと思います。
※	オンライン開催でとても良かったです。ポスター発表のオンライン質疑応答がオンラインより活発にでき、Zoomでデスクトップも共有できてとても良かったです。Editorの方とお話をしたり、色々なお話を伺うことができて大満足でした。どうも有難う要旨全文pdfのダウンロードは無くなったのですか？
※	・年会費設定は相応で、ちょうどよいと感じた。・完全オンライン年会だと参加費以外のコスト(旅費や余分な食費、旅行の準備や移動の時間)がかからないので、オンライン年会に比べ総額が安価で手間も少なく済んだと感じた。
※	MBSJ2020 Onlineの年会参加費設定は適切な範囲かと思いますが、もしできれば、もう少し安ければ(正会員:3000円~4000円くらい?)
※	初めての試みで準備がとても大変だったと思いますが、オンラインならではの利点を追求したとても挑戦的な会で、参加できて良かったです。トラブルはありましたが「新しい分生のかたち」を拓いていただけたと思っています。ありがとうございます
※	この年会の内容であれば安いと感じた
※	参加費は極めてリーズナブル
※	年会参加費は高いと感じた
※	参加費は研究費から支出できるので、この倍でも3倍でも、構わない。いい年した研究者や運営者が「お金がない、お金がない」とばかり言うのは若者に悪影響が大きいので止めて欲しい。正会員は1万円~1万5千円くらいが相場ではないでしょう(オンラインならもっと高くても良い)。学部学生は自腹で来ているかもしれないので、タダで良い。分子生物学会の運営の人たちは、エスタブリッシュされた研究者や、一部の大学・研究所さえ良ければ、あとは切り捨てても良いと思っているのではないかと。学生・大学院生・若手研究者・地方や弱小機関に所属する研究者のことを真剣に考えれば、「全てオンラインで行う」「シンポジウムを充実させる」という意見にはならないと思う。オンラインで、ポスターやワークショップをきちんと
※	参加費は適正と感じた。
※	workshopで発表したが、やはり聴衆の顔や反応を見ずに発表するのは少し難しかった。
※	様々な手間や経費を考えると、参加費は安いと感じた。日本最大級の学会のオンライン開催を短期間でここまで準備できたことには感動した。もちろん、工夫するべき点・いろいろな意見がでてくるとは思うが、新しい形の会に参加できて楽し
※	年会費は妥当。交通費や宿泊費がかからないので、いつもの年よりも多くの学生が発表できた。
※	WSのオーガナイザーとして、事前に連絡にあった様に全面的に英語での進捗を心がけたが、他のWSでは質疑応答が日本語であったり、WS全般が日本語であったりと、英語での進捗を苦勞して準備した努力がなんだったのかと感じる場面もあった。引き続き来年以降も類似したWSを開催するにあたり、その審査過程には上記の様なこれまでの実績も考慮しても
※	年会参加費について、オンラインとしては妥当な金額であるが、オンラインとしては高過ぎる。
※	トライアルの側面はありましたが、大成功の年会だったと思います。オーガナイザーの皆様準備お疲れ様でした。
※	高いと感じた
※	海外からの講演者のために、英語開催のセッションを用意するのは必然だとは思いますが、一方、分子生物学会は他分野の研究を勉強するための場としておりましたが、今回は他分野の講演を英語で視聴しても完全には理解できず、大変残念でした。学生やポスドクは英語発表でトレーニングするのも良いかと思いますが、大御所の先生のご講演などは100%理解できる日本語で聞きたかったと思うものも、かなりございました。今後は日本語セッションの継続頂けるように再考して頂ければと存じます。また、オンラインですと、視聴していないセッションも多くございますので、アンケートの際には、「参加していない」も必要かと思えます。今回の大会は、大変な状況の中、準備委員会の先生方には本当にご苦勞されたことと
※	発表する学生は学部生であっても1000円という記載が必要
※	参加費などは適切だった気がします。シンポジウム・ワークショップの演者名(可能なら演題タイトルも)は視聴サイトだけではなく、大会ホームページ上にもアップしても良いと感じました。
※	完全オンライン一年目にしてはかなり質の高い会であったと感じ、今後の新しい年会の可能性を切り開いたように思う。今年見えた改善点等が修正されれば、今後違和感なくオンラインもできるのでは?と思った。
※	参加するならばオンラインに限ると思いました。しかし、時代の流れからハイブリッドは許容できます。
※	参加費は適当だと思います。
※	今年のプログラム集(印刷物)はほとんど役に立ちませんでした。急にオンラインになったためにあのような形になったのかもしれませんが、できれば例年の様に、ポスターも含めて演題名まで印刷してほしい。すべてをオンラインで見なければいけないのは、時間がかかりすぎて苦痛でした。
※	適正価格と思います。
※	適切な設定と思います。
※	他の学会はタダになったものもあるので、Onlineなのに高いと感じた。
※	次回はぜひまた参加したいです。いろいろな土地で開催されるのも実は楽しみだったりします♪
※	今後オンラインでやっていなら会場代がかからないだろうから安くしてほしい。のぞき見はとてもしやすいが、質疑はやりにくかった。
※	参加費設定は妥当である。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	この年会の内容であれば高い
※	参加しないと演題名が全く見られなかったの、ポスター等にはどのような発表があるのかわからず、参加する気になれなかった(参加するかの判断に困った)。例年の通りの会員に送られてくるプログラム集に従って、せめて(Late-breaking Abstract以外の)演題名は見られるようにしてほしい。
※	高い。組織委員会の皆さんは大変ご苦労されて頑張られたのだとは思いますが、正直いろんな面がっかりしました。
※	その日のポスターのタイトル、発表者、アブストのみを一覧で閲覧し、気になるポスターについてはポスターのPDFにそのままアクセスできるシステムを構築して欲しい。今回の方法では各細目分野にアクセスし、そこから1つ1つポスターにアクセスしないとタイトル、演者、アブストが確認できなかったためその日のポスターを「ざっと見流す」方法がなく、自分の興味のありそうなポスターがあるかないかがわからずに終わってしまった。
※	正会員だがオンライン開催とオンサイト開催では金額が違う？前者であれば下げられる？
※	フォーマットの急な変更にもかかわらず、オンライン開催が無事に終了したことは大成功といってよいと思います。年会長をはじめとする関係者のみなさまはほんとうにお疲れさまでした。この経験値を活かし、来年度はさらにより年会としていただければと思います。
※	オンサイトと比較すると5000円でも高いと感じた。実際の運営費がわからないのでなんとも言えないが、オンサイトの1/3程度が妥当な気がする。
※	一般参加費は適正価格だと思う。ポスターは学生価格でもいいのか？学部生や大学院生は、オンライン開催の場合には一律無料、にしてもいいのではないかと？大学院進学率や研究業界への引き留めの一助になると思う。年会運営、組織委員の先生方には、たいへんお疲れ様でした。いろいろと問題はあったと思いますが、それでもこれだけの人数の学会を、短期間に準備して実行されたことは素晴らしいと思います。ありがとうございました。
※	この年会の内容であれば、高いと感じる。コンテンツや開催期間・配信方法などの検討が十分ではない。たとえば、シンポジウムとワークショップは配信し、フォーラムは配信しない運営であったが、その理由が分からない。
※	参加費は、妥当ではないでしょうか(もちろん安いほうが助かりますが)。
※	年会参加費は適当に感じた。
※	オンラインは雑談ができないので、参加する意味がない
※	いい面もあるし、悪い面もある。いい面は会場を移動しなくても良いこと、画面がよく見えること。悪い面は出張できないことでしょうか？大学の授業と同じで、対面でないとなりに成り立たない人と人のcommunicationは学会でも同じだと思います。
※	ConBio2017はオンサイトで参加できなかった発表もかなり長期間オンラインで視聴が可能であり、かつ分野も多岐にわたって非常に刺激を受けた学会だったので、あのような年会の開催を検討していただければ嬉しいです。
※	難しい中で開催していただいた関係者の先生には、大変敬意を表します。学会は、やはりオンサイトが良いと感じましたが、オンラインでやった方が効率的なものもあると思うので、今回のアンケート結果を見て、より学会員がbenefitを受ける形にできたら良いと思う。値段選定は、難しいと思います。今回は、正直安いと感じましたが、人によっては捉え方が違うと
※	オンライン学会としては正会員5000円の参加費は高いように思われました。使途の内訳はどのようになっているか、会報で開示していただければ良いと思います。
※	ログインできることを確認しただけで、全く発表は聞けていないし、ポスターも見えていない。現地開催であれば学会参加ということで、会議や講義を休みにすることができるが、オンラインではそれはできない。参加費を払っただけで、何の情報も得られていない。
※	参加費は、大きい学会としては安い。なぜ他の学会が高いのでしょうか不思議。
※	今年は、初めてのオンライン開催でしたので、発表は行わず、参加のみにしました。学会が始まる前から要旨の検索など行いましたが、要旨の印刷やお気に入りの登録など、いつもより使いにくかったです。また、学会1日目は、つながりにくかったの、ポスター発表での質疑応答は難しかったです。その後、2日目からChromeに変更して、つながりやすくなりました。ポスターはPDFでアップロードされていますが、これではデータを盗まれる可能性があると感じました。ポスター発表は避けたいと感じる研究者も多かったのではないのでしょうか。一日中、PCの前に座っているより、オンサイトと混ぜた方がプログラムブックの配布は必須だったと思います。ポスター演題名も全部パソコンで調べなければいけなかったの、目がとても疲れました。
※	学会後にオンライン開催の運営費用が高かったのか安かったのかを事務局が算出・公表していただけると、学会参加費が高かったのか安かったのかの相対的な価値が参加者にも分かると思う。
※	繰り返しになるが、オンライン開催がこんなに快適だとは思わなかった。もうこういう流れになると思う。
※	安いと感じました。
※	とても素晴らしい発表をたくさん拝聴し、ディスカッションできたので良かったです。オンラインとオンサイトでは、運営費用が同じくらいかかるということがクリアであるのなら、この値段は妥当だと思いました。次年度以降、リアルタイム字幕、ワンプッシュで演者や参加者にオンライン名刺が送れるシステム、分子生物学会会員が英語プレゼンテーションスキルを磨ける場を事前に設けるなどのサービスがあれば、移動時間や住む場所、言語のハードルが低いオンライン学会ができるのではないかと、色々な可能性を感じました。ありがとうございました。
※	いくつかのシンポジウムやワークショップにおいて、時間が少なくなってしまったために、後半の演者の質疑応答の時間が、前半の演者に比べ極端に少なかったり、全く無かった発表もあった。ちょっと演者に対して失礼だと思いました。画面の時は既に時間をオーバーしているのに、座長が気づいていないことがあったので、ベルを鳴らすなどの工夫が必要と
※	プログラムのブラウジング、ポスターのブラウジングなど、この予算内でもっと使いやすくて欲しいと思います。
※	とにかくオンライン開催はありがたい。海外からの参加でもあるので、移動の時間を割かずに講演やポスター発表を聞いたりできるのがよかった。この形式なら、日本からの発表でも、数多くの学生も積極的に参加できると思う。また、オンライン開催なので、ワークショップの数は増やしやすい。学生をみの選抜のワークショップを開いて、発表の機会を設ける等、教育的観点のイベントももう少し実施してもいいと思う。この場合、外国人の学生を半分くらい招待して、外国での学会の雰囲気味わう等の企画ができると思う。Youtubeなどを使って、ビデオでのデモンストレーションや使い方の説明が用意してあるのもいいと思う。オンラインでの開催なので、外国人をもっと招聘していいのでは？特に外国の学生を招待すると、日本の学生さんの刺激になると思う。学生には、学会での賞をもう少し用意してもらって彼らのCVに書けることが多くなる。英語での発表には時間と労力が必要だが、上手にできた場合は、それらの賞を用意しておく、モチベーションにも
※	オンライン参加で参加費 5000 円は高いと感じた。
※	ちょうどよかった。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	オンライン開催された他学会と比べても、MBSJ2020の年会参加費設定は十分に安く、旅費も不要なことから、今回初めてMBSJ年会に参加させていただきました。オンライン開催の取り組みは学会参加のハードルを下げ、学会の活性化に繋がると感じています。海外の学会は大体どこも1ヶ月くらい視聴可能であるのに、今回、週末1回しかはさんでならず、すべてを視聴することができません。平日は日常業務に追われているため、視聴する時間はなかなかとれないため、すくなくとも4週末(=1ヶ月)くらいあると勉強できるので助かります。
※	安いと感じるし、気軽に参加登録できると思う。
※	総会に関して、こちらは学会運営上の議題についての会と認識しているが、せっかくonlineでやっているのであれば、総会のみは年会に参加しない(できない)会員でもその時だけアクセスできるシステムにするのが良いと思う。そうすれば当日に会場に行けない人間も総会の議決に参加することができる場合もあり、議決に必要な参加人数も確保しやすくなると思う。
※	online中心になると、本会の意義は薄れるような気がする。
※	年会費が安いのは、参加しやすくてよかったと思います。
※	学会でいろいろな人と気軽に質問したり、話したりすることが研究を広げるためには重要だと感じました。すべてオンラインは便利ですが、ひとつのつながりを広げるのは難しい印象です。やはりオンサイトが必要だと思います。
※	今回は初めての試みにもかかわらず、他の学会と比べても、コピー防止機能など、よくできていたと思います。多少サイト、ネットの不安定性はありましたが、このシステムが次回以降も採用されるならば、会費はもっと安くできるのでは無いでしょうか。海外からの招聘も気楽にでき、参加自体も気楽にできるようになるのではと思います。
※	費用の面はオンラインツールのライセンス料などにお金がかかるのは理解できますが、どのくらいかかるのかは想像できないので、プラス数千円とかで格段によくなるならそれは惜しみません。
※	参加費は高いと感じましたが、運営に手間と時間がかかることを考えると妥当かなと思います。今後もずっとオンライン開催になる場合は、値下げを希望しますが、今回は良いと思います。
※	急遽決まったオンライン開催でこれほどの大きな会を成功させられたことに敬意を表します。
※	もう学会はオンラインの方が実験に支障が出なくて良い。参加費も安い。
※	全ての発表をPCで見ることができたので、見やすかった。オンサイト会場ではこうはいかない。セッションに興味がなかった場合、会場を歩いて移動する必要がない点は素晴らしい。そもそも、学会場へ向かう往復の移動が時間的にも費用的にも税金の無駄遣いであり、オンサイトで実施する必要は今後ないと思う。すべてオンラインで実施してほしい。
※	この参加費でこの内容なら、圧倒的に安い。
※	初めての試みでもあるので、収支を十分に精査していただき、今後の開催における基礎データとしてほしい。
※	このアンケートがすでに見辛い。この内容であれば参加費は高い。オンラインであっても交流の場を設けた方がよい。zoomのオーラルは基本的にどの人の発表も下手だったので、どうにかしたほうがよい。赤い点を動かすのは禁止、など。
※	オーガナイザーの努力・工夫は素晴らしいと思います。ただ、オンライン学会というのはこの学会にはそぐわないと思いました。
※	年会費、参加費を安くしてほしい。コストダウンは可能だと考える。
※	安い
※	今回はやむを得ないと思うが、もし最初からオンライン開催が決まっているならもう少し安くできるのでは？
※	事務局の方は迅速に対応して下さい、大変良かったです。ありがとうございます。Spatial.chat(講演終了後に講演者と議論できるトークルーム)の際、発声が他の参加者に聞こえないトラブルがあり、使用しにくかったです。来年以降も同様のことを行うのでしたら、そのような問題が起きないように改善をお願いします。
※	海外からの参加をもっと増やせると感じました。
※	平日開催が多く、例年所属施設の行事で参加出来ないことが多い。今年度も結局期間内の閲覧が出来なかった。土日を軸とした開催を希望します。また開催期間も開催年によって変えて欲しい。固定していると今後もほぼ参加出来ない。ご検討のほどよろしく申し上げます。
※	スピーカーが全員日本人で言語が英語というのは、疑問が残った
※	特になし
※	学部学生は無料でも良いのではないかと
※	これだけ大規模な学会を全てオンラインに切り替えるご苦労はとて大変だったとお察します。ご苦労様でした。今回の試みで、オンライン・オンサイトそれぞれのメリット・デメリットが判ったように思います。個人的には、オンラインのメリットを差し引いても、オンサイトの方がいいような気がしております。しかし、今回のコロナ流行ではオンラインも致し方ないのかと思います。「これだけの大規模でもオンラインでできるのだ」ということが判ったのは良かったのかと思います。今回を踏まえて、今後の発展を楽しみにしております。よろしく申し上げます。
※	こんな学会(年会)参加に5,000円も取られるなんてあり得ない。これが、今後の学会のあり方であれば、学会発表をする意味を感じない。論文発表で十分である。
※	初めての試みとしては良かったと思う。ただ、大学にいるとなかなか参加が難しく、あまり活用できなかった。
※	最終日の年会長企画フォーラムがよかったでした。
※	状況の大きな変化に対応していただいた組織委員の皆様へ感謝します。人が集まることの意味を思い出させてくれた年会でしたが、これが現代の研究会なのかなと諦めてもいます。経験を重ねることでオンライン開催にも工夫が出てきて、より良い集まりになっていくことを期待しています。
※	特に高いと思わなかった。オンラインはITツールなどの整備・サポートに予算がかかるので、そういったところにお金を使って貰えたら良い。
※	オンライン開催のメリットや可能性を感じることができました。時差の問題が残るにしても、海外の研究者も参加しやすいと思います。海外の学会がオンライン開催なら、気軽に参加できそうだと思います。ポスターは、オンサイトだと周囲が賑やかで声が聞こえないことも多々ありますが、オンラインだと聴きやすいため、メリットの方が大きいと思いました。
※	ポスターの場で懐かしい顔を見かけても、いつものように声を交えて、ポスターを離れて近況を交流したり、雑談する、ということもできないのも残念でした。ひょっとしたら、今回でも参加者を特定してチャットできたのかもしれませんが、それができるなら、場所(zoom)を変えたり、あとで話す約束ができたり、が可能なのに、、、と感じています。
※	こういった状況になってしまい、突然のオンライン開催ということで、大変ご苦労があったのではないかと想像します。しっかり学会を開催してくださった運営やスタッフのみならずには大変感謝しております。ありがとうございます。
※	オンラインのみで、今回の参加費の設定は適切であったと思う。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	オンラインはすばりしかったです。今後も是非オンラインで。
※	会費は適切な価格だと思う。
※	オンサイトの場合、会場が広く、シンポジウム・ワークショップの会場を回るだけで、疲れていた。オンラインの場合、見たい発表をクリック一つでアクセスできるので、その点は便利。また見たい発表の時間帯が重なった場合も、オンデマンド視聴が可能であれば、発表を見逃す可能性が低く、嬉しい。加えて、オンサイトの場合、オーディエンスが多いと発表スライドが見え辛いことがあるが、オンラインの場合は、そのようなことがなく、スライドを近くでクリアに見ることができる。一方、職場でオンライン参加することが多いので、学会に関する事以外の仕事にも対応してしまい、あまり集中してシンポジウムや
※	オンラインでしたが、研究仲間とも交流でき、楽しい学会でした。どうもありがとうございました。
※	オンライン学会は、低コストで気軽に参加できるのが良い。
※	もう少し安価にさせていただくことを希望します(正会員で3000-4000円など)。その範囲でのオンライン開催で問題ないと思
※	今回の参加費はリーズナブルと思いました
※	学部学生は無料とし、学会入会を強制するべきではない。
※	正会員の年会費は適切であると感じている。一方で、学生会員は、もう少し安くても良いと思う。